デジタルビデオカメラ

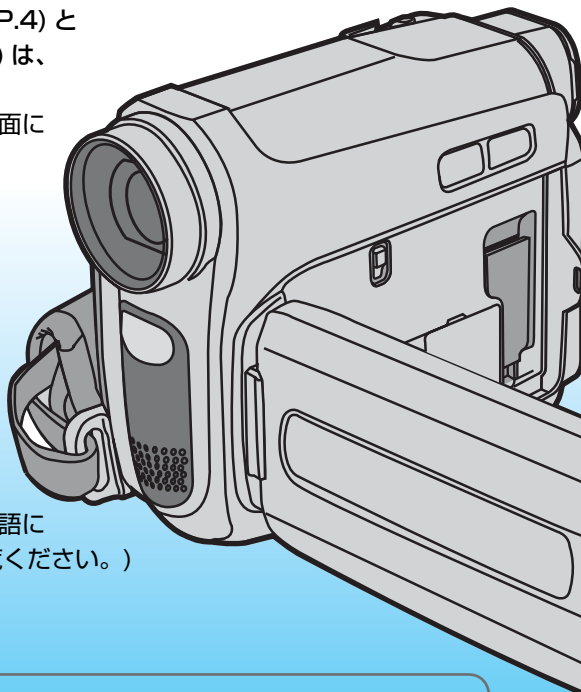
型名 GR-D790

取扱説明書

お買い上げありがとうございます。

ご使用のまえに

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「使用上のご注意」(P.4) と「安全上のご注意」(P.86) は、必ずお読みください。

［本機の製造年は、本体背面に表示されています。］

For English Users

To change the Menu indications etc. to English, see page 23.
（本体画面の表示などを英語に変えるには、P.23 をご覧ください。）

Mini DV

製品のサポート情報、イベント情報等の提供サービスなどをご利用いただけます。
http://www.victor.co.jp/reg/

もくじ

はじめに

準備する

すぐ使う

もっと撮る

編集する

設定する

困ったときは

その他

使用上のご注意

撮影について

● 大切な記録のまえには、必ず試し撮りをしてください。
撮ったところを再生してみて、画面と音が記録されていることを確認してください。

● 大切な記録は SP(標準) モードをお使いください。
LP(長時間) モードでは SP モードの 1.5 倍記録できますが、テープの特性や使用環境に影響され、再生時にモザイク状のノイズが発生する場合があります。大切な撮影には SP モードのご利用をお勧めします。

このビデオカメラについて

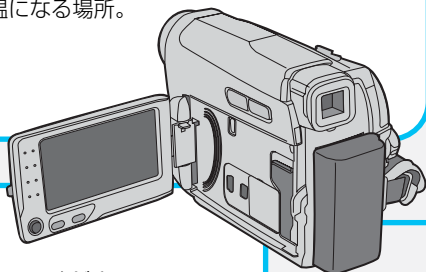
● DV 方式です。ほかの方式や従来式のビデオとは互換性がありません。

● ご使用のまえにビデオヘッドクリーニングをお勧めします。
ビデオヘッドが汚れていると、正常な記録や再生ができなくなります。

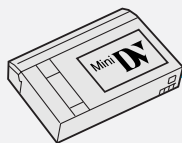
ビデオヘッドが汚れているときの画面

● 長期間使わない場合は、テープを取り出し、電源を切り、バッテリーを取りはずしてください。
ときどき電源を入れて、動作を点検してください。

● ビデオカメラは、バッグなどに入れて保管してください。

● ビデオカメラは、次のような場所に置かないでください。
・ 晴天時の閉め切った車内など、高温になる場所。
・ 直射日光が当たる場所。
・ ゴムまたはプラスチック製品に接触する場所。

液晶画面について

● 表面を強く押したり強い衝撃を与えないでください。
傷がついたり、割れたりする場合があります。

● 小さく光る点 (赤・青・緑) や黒い点は故障ではありません。
テープには記録されません。

テープとカードについて

- 次のマークがあるものを使ってください。 Mini DV　SD　MultimediaCard
- SDHC メモリーカードは、使用できません。
- 曲げたり、落としたり、強い力、衝撃、振動を与えないでください。
- テープを保管するときはカセットケースに入れ、湿気のない場所に保管してください。
- カードの金属部分を触らないでください。

※ 不具合により正常に動作しないことがあります。内容の補償はご容赦ください。

著作権について

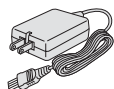
- 録画・録音したビデオは個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 鑑賞・興行・展示物など、個人として楽しむ目的でも撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。

バッテリー（充電式電池）について

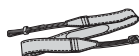
- バッテリーは必ずビクター製をお使いください。ビクター製以外では正常に動作しません。
- ご購入時はバッテリーは充電されていません。充電してお使いください。
- 低温（10 ℃以下）では、使用できる時間が短くなったり、動作しないことがあります。
  冬場の屋外などでは、バッテリーをポケットに入れるなど温かくしてから取り付けます。カイロなどに直接ふれないよう、ご注意ください。
- 長期間保管するときは、バッテリーの劣化を防ぐため、次の操作で使いきってください。さらに、半年に 1 回程度充電し、再び使いきってから保管してください。
  1)テープを入れずに、電源スイッチを「録画」にあわせる。
  2)電源が自動的に切れるまで待ち、バッテリーを取りはずす。
- 使わないときは、バッテリー残量が減るのを防ぐため、必ず取りはずしてください。
- 取りはずしたバッテリーは、バッテリーキャップを取り付け、約 15 ～ 25 ℃の乾燥したところに保管してください。
- バッテリーを処分する際は、P.96 をご覧ください。

はじめにお確かめください

付属品

万が一、不足品がございましたら、お買い上げ店、またはサービス窓口にお問い合わせください。

ACアダプター
AP-V14

バッテリーパック
BN-VF808

SDメモリーカード
(32MB)
(ビデオカメラのなかに入って出荷されております。)

ショルダーストラップ

ワイヤレスリモコン
RM-V740(リモコン)

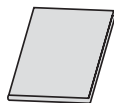
ボタン電池(CR2025)
リモコン動作確認用
(リモコンのなかに入って出荷されております。)

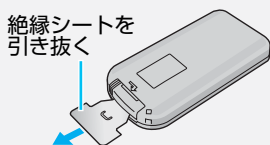
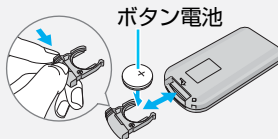
専用USBケーブル
Aタイプ－ミニBタイプ

(L型プラグ) または

AVコード
※本書中では、L型プラグのイラストで説明しています。

レンズキャップ

CD-ROM

取扱説明書
(本書)

■リモコンを使うときは

■リモコンの電池を入れ替えるときは

別売アクセサリー

詳しくはカタログをご覧ください。

バッテリーパック	BN-VF815
バッテリーパック	BN-VF823
バッテリーキット	VU-V840KIT
バッテリーキット	VU-V856KIT
バッテリーチャージャー	AA-VF8
DC コード	VC-VBN800

日常のお手入れ／海外で使うときは

お手入れのまえに、バッテリーとACアダプターを取りはずしてください。

本体	●乾いた柔らかい布などで汚れを拭き取る。汚れがひどい場合は薄めた中性洗剤を浸して固く絞った布で拭き、乾いた布で水分を拭き取る。 ご注意 ●ベンジンやシンナーは使わない。損傷や故障の原因になります。 ●化学ぞうきんや洗剤を使う場合は、製品の注意書きに従う。 ●ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしない。
レンズ・液晶画面	●市販のレンズブロワーでホコリを落とし、市販のクリーニングクロスなどで汚れを拭く。汚れたまま放置しておくと、カビ発生などの原因になります。
ファインダー	●市販のレンズブロワーでホコリを落とす。レンズブロワー以外を使用しない。

本機は海外でも、ACアダプターを使ってバッテリーを充電したり、コンセントから直接電源を確保できます。ただし、コンセントの形状は国によって異なりますので、変換プラグが必要です。

訪問国にあった変換プラグをご用意ください

コンセントの形状（主な使用国）	（北米·南米など）	（オーストラリア）	（ヨーロッパ）		
使用する変換プラグ	必要ありません				

次の訪問国では、現地のテレビでも再生できます

映像・音声入力端子付きテレビが必要です（P.34）。

■アメリカ合衆国
■韓国
■コスタリカ
■トリニダード・トバコ
■バハマ
■フィリピン
■ペルー
■ミクロネシア
■エクアドル
■キューバ
■コロンビア
■ドミニカ
■バミューダ
■プエルトリコ
■ホンジュラス
■ミャンマー
■エルサルバドル
■グァテマラ
■スリナム
■ニカラグア
■バルバドス
■米領サモア
■ボリビア
■チリ
■カナダ
■グアム
■台湾
■ハイチ
■パナマ
■ベネズエラ
■メキシコ

各部のなまえ

背面

液晶画面 (P.20)
撮影中、再生中に映像が映る。
また、メニューが表示される。

ファインダー (P.20)

電源ランプ (P.16)

撮影ボタン

バッテリー取り付け部
(P.15)

製造年表示

16:9(P.26)
／ブランク (P.31)
／インデックスボタン (P.33)

メニューボタン (P.62)

上 (▶/II 再生・一時停止／フォーカス (P.39))

決定レバー

右 (▶▶ 早送り／ライト (P.29)

下 (■停止／逆光補正 (P.40))

左 (◀◀ 巻戻し／クイックレビュー (P.27))

右側面

左側面

上面

ズーム (P.28) ／音量レバー

T	撮影時：大きく撮る 再生時：音量大
↕	
W	撮影時：広く撮る 再生時：音量小

正面

底面

リモコン

ズームボタン
T：大きく撮る
W：広く撮る

撮影スタート／ストップボタン

画面表示ボタン

静止画ボタン

演出効果入／切ボタン

演出効果ボタン

シフトボタン

■リモコンの使いかた

リモコン受光部

屋内で約 5m

リモコン発光部

❚❚ ボタン（上ボタン）

◀❙ ボタン
（スロー（逆転）ボタン）

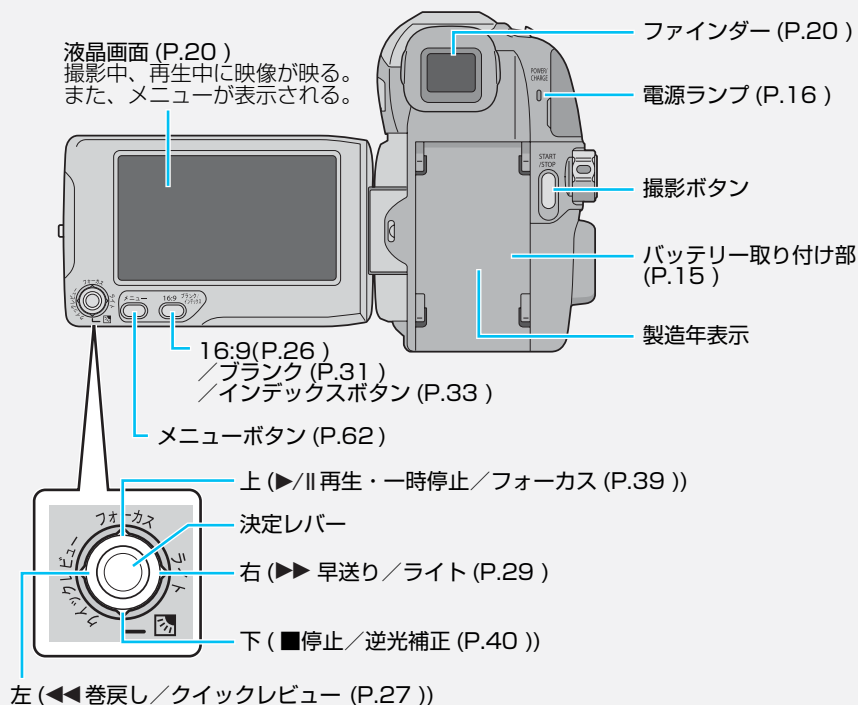
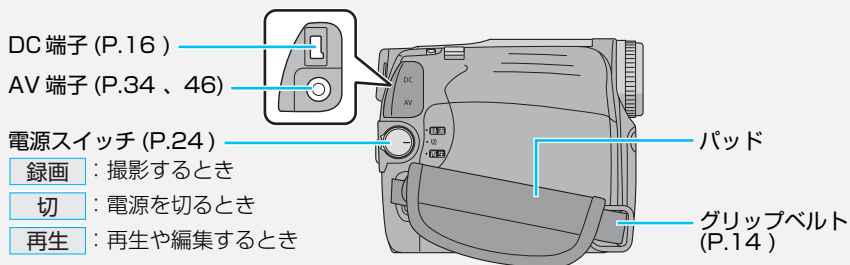
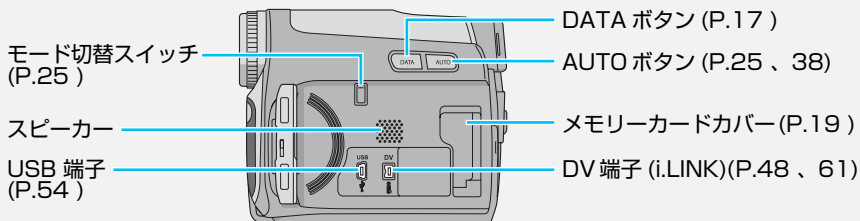
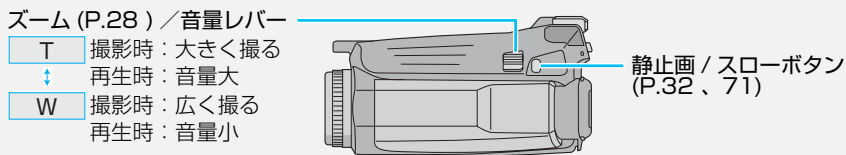
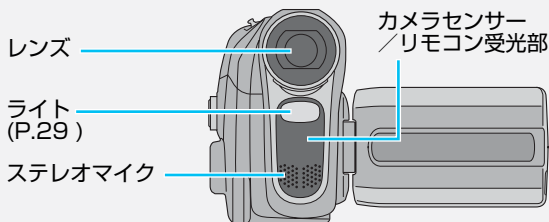
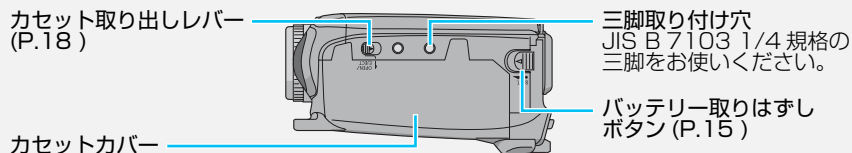
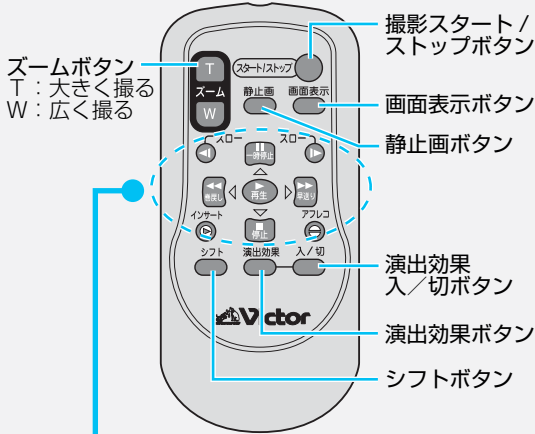
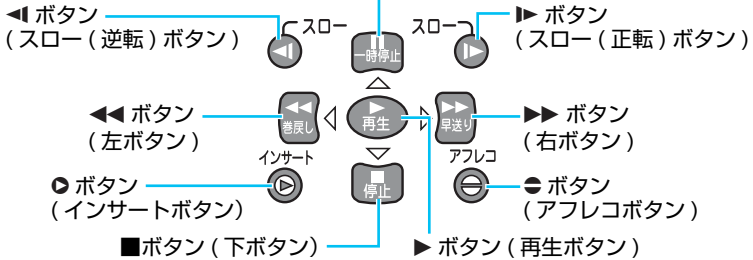
❙▶ ボタン
（スロー（正転）ボタン）

◀◀ ボタン
（左ボタン）

▶▶ ボタン
（右ボタン）

⊳ ボタン
（インサートボタン）

⊖ ボタン
（アフレコボタン）

■ボタン（下ボタン）

▶ ボタン（再生ボタン）

■コマ送り再生（ムービーのみ）
「スロー」を押す。
（押すたびに 1 コマ送る）

■拡大再生（再生ズーム）
「T」を押して拡大する。
「W」を押して戻す。

■再生画面に効果をつける（ムービーのみ）
「演出効果」を押して効果を選ぶ。

■スローモーション（ムービーのみ）
「スロー」を約 2 秒以上押し続ける。

■拡大した画面を動かす
「シフト」を押しながら △、▽、◁、▷ で動かす。

お知らせ ●受光部の正面から操作することをお勧めします。角度によっては操作できない場合があります。受光部に直射日光や照明の強い光が当たると、誤作動したり、動作しないことがあります。

撮影画面の見かた

すべての撮影に共通

バッテリー残量 (P.95)
多い
少ない

ズーム倍率 (P.28)

ズーム (P.28)

明るさ補正 (P.40 、41)
逆光補正
スポット補正
数字 明るさ補正

撮影モード (P.25 、38)
A オート撮影
M マニュアル撮影

明るさ固定 (P.41)

ライト (P.29)

日時 (P.21 、73)
AM：午前
PM：午後

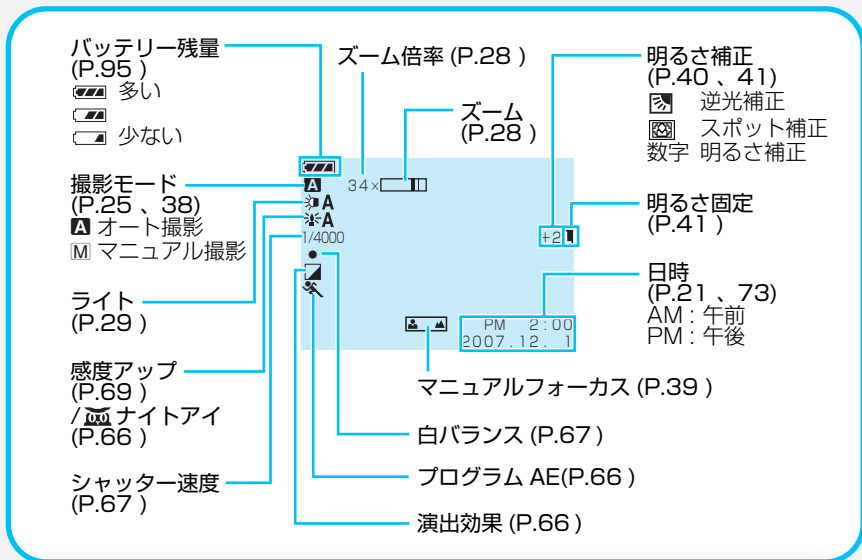
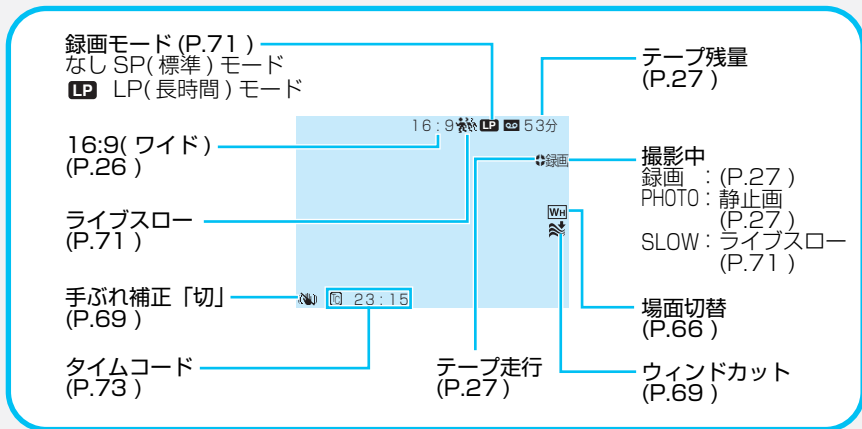
感度アップ (P.69)
/ ナイトアイ (P.66)

マニュアルフォーカス (P.39)

白バランス (P.67)

シャッター速度 (P.67)

プログラム AE(P.66)

演出効果 (P.66)

ムービー撮影 「ビデオ」に設定

静止画撮影 「メモリー」に設定

再生画面の見かた

ムービー再生 「ビデオ」に設定

音声モード（P.71）／アフレコ音声（P.71）
12(16)BIT
12BIT/アフレコ
12BIT/ミックス

バッテリー残量（P.95）

ライブスロー再生（P.31）

録画モード（P.71）
なし SP（標準）モード
LP LP（長時間）モード

音声切替（P.71）
ステレオ
L 音声 L（左）
R 音声 R（右）

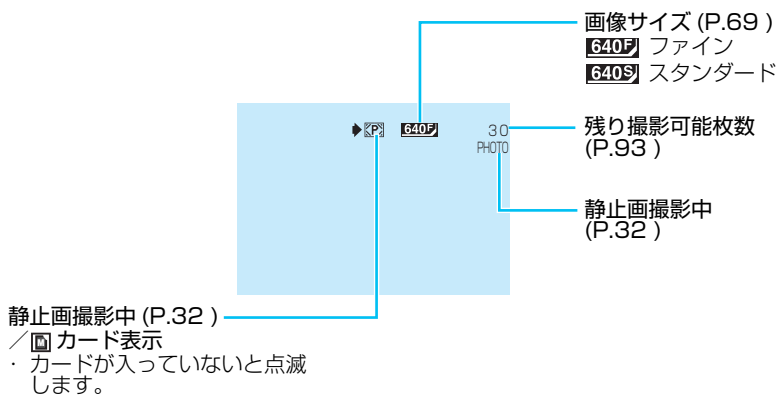
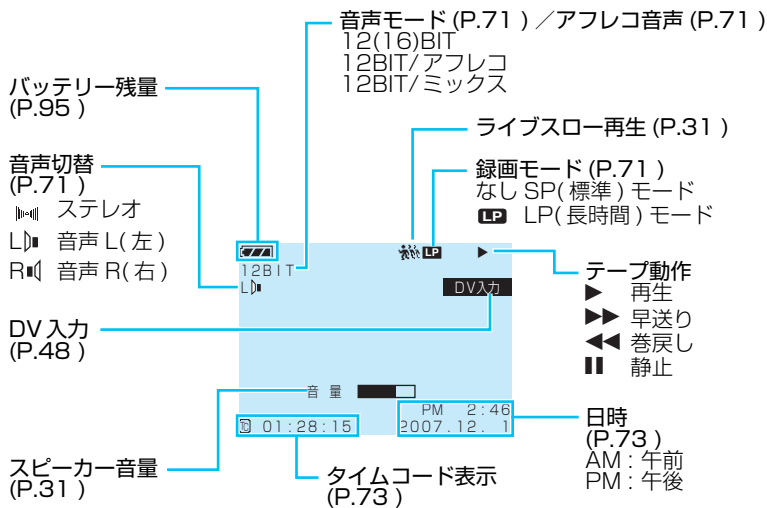
テープ動作
▶ 再生
▶▶ 早送り
◀◀ 巻戻し
❚❚ 静止

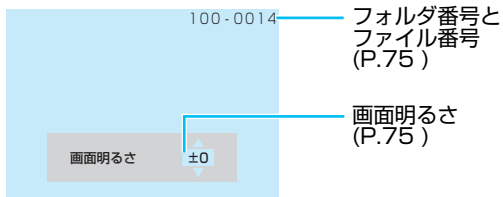
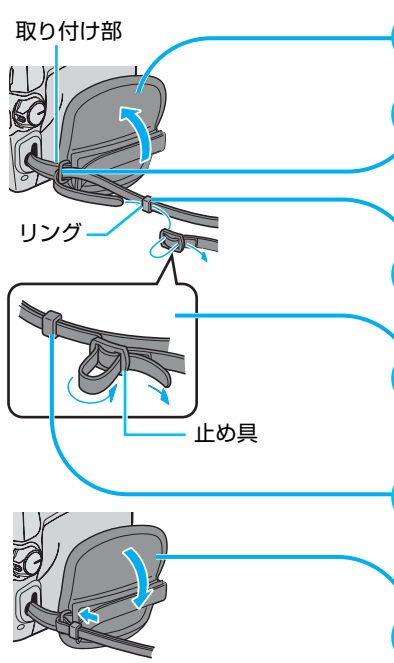
DV入力（P.48）

日時（P.73）
AM：午前
PM：午後

スピーカー音量（P.31）

タイムコード表示（P.73）

12BIT
L
DV入力
音 量
PM 2:46
2007.12. 1
01:28:15

■日付などの表示を消すには
メニューで次のように設定する（P.73）。
・画面表示切替：「切」または「モニター」
・日時表示　　：「切」
・タイムコード：「切」

静止画再生 「メモリー」に設定

準備する 1

付属品を取り付ける

ショルダーストラップを取り付ける

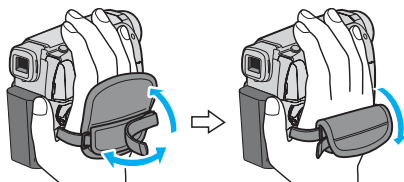
取り付け部

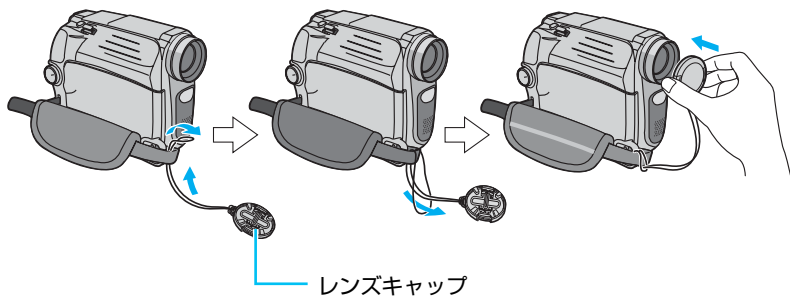
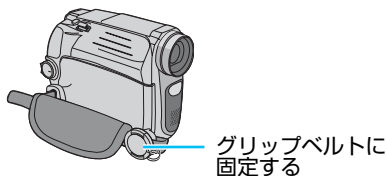
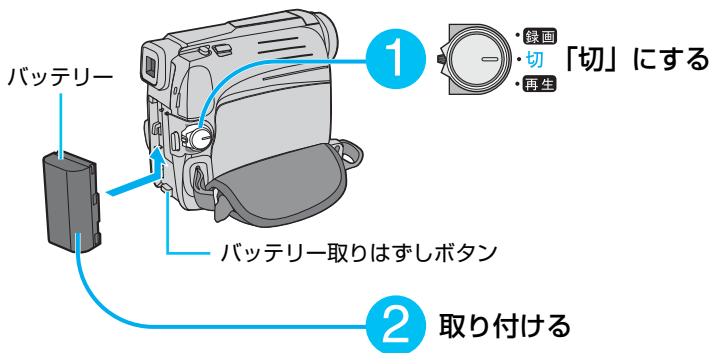
リング

止め具

1. パッドをはがす
2. ショルダーストラップの先を取り付け部に通す
3. リングに通す
4. 長さを調整して止め具で固定する
5. リングをショルダーストラップの取り付け部によせる
6. パッドを戻す

グリップベルトを調節する

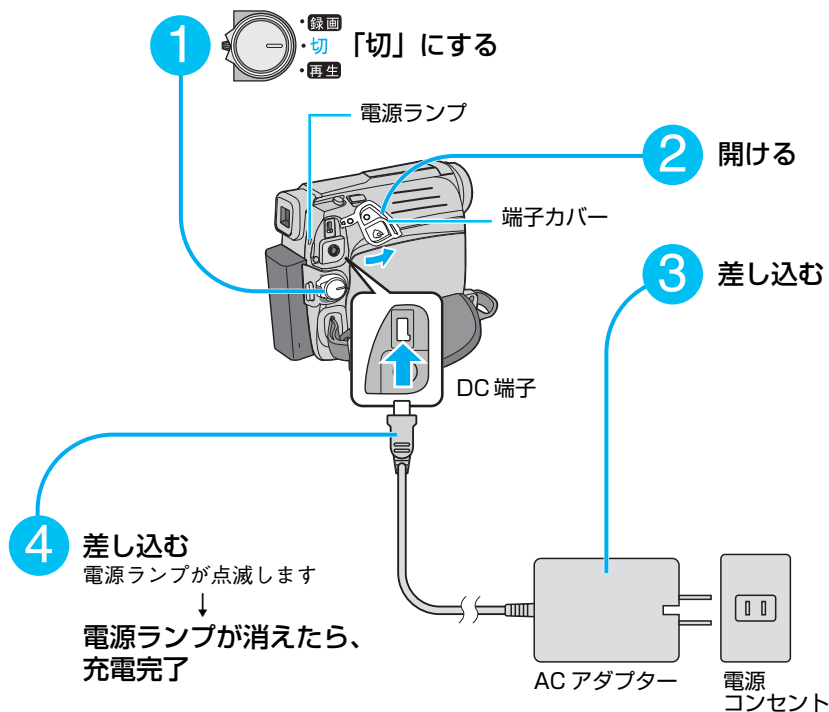
軽くにぎって安定するように調節しておくと、長時間でも楽に撮影できます。

レンズキャップを取り付ける

撮影しないときは、レンズの保護のために取り付けます。

■撮影するときは

バッテリーを取り付ける

■バッテリーを取りはずすには

手順 1 のあと、底面のバッテリー取りはずしボタンを押したまま、逆の動作で取りはずす。

準備する 2 バッテリーを充電する

AC アダプターを取り付ける

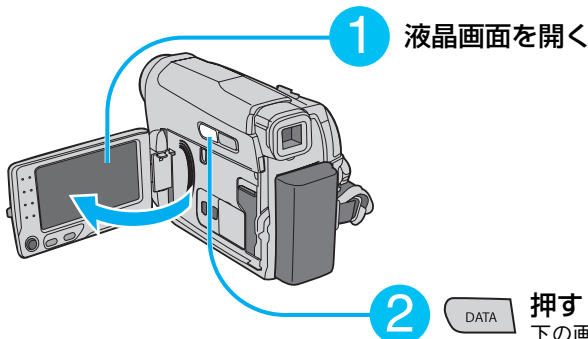
AC アダプターを取り付けて、撮影のまえにバッテリーを充電してください。

■充電が終わったら
AC アダプターをビデオカメラと電源コンセントから抜く。

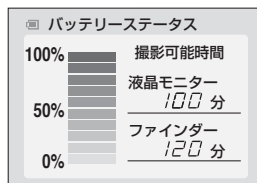
■自宅で使うときなどは
AC アダプターを取り付けると、バッテリーの残量を気にせずに使うことができる。

■充電時間の目安
「充電時間の目安」(P.95)

バッテリー残量を調べる

準 備 ●AC アダプターを取りはずす

1 **液晶画面を開く**

2 DATA **押す**
下の画面が表示されます
電源スイッチ「切」の場合、
約 5 秒後に消えます

3 DATA **押す**
表示が消えます

■通信エラーと表示されたときは

・ DATA ボタンを何度か押してみる。
・ 電源 (バッテリー) を取りはずし、再び取り付け、DATA ボタンを押してみる。

それでも通信エラーと表示されるときは、お買い上げ店またはビクターサービス窓口にお問い合わせください。

■より正しいバッテリー残量を得るには

バッテリー残量を正しく表示していないと思ったときは、バッテリーをいったん満充電にしてから使い切り、改めて充電する。
ただし、高温 / 低温で長時間使ったバッテリーや、何度も充電を繰り返したバッテリーでは、この操作を行ってもバッテリー残量を正しく表示できないことがあります。

お知らせ
●撮影可能時間は目安です。5 分単位で表示されます。
●電源スイッチ「切」の場合、手順 2 で DATA ボタンを約 2 秒間押し続けると、バッテリーステータスが約 15 秒間表示されます。

準備する 3 テープとカードを入れる

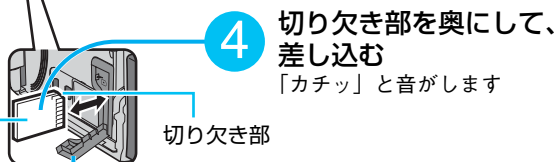
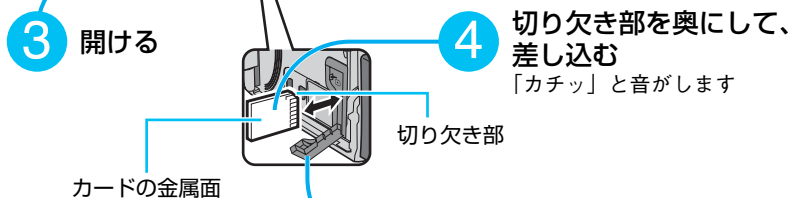
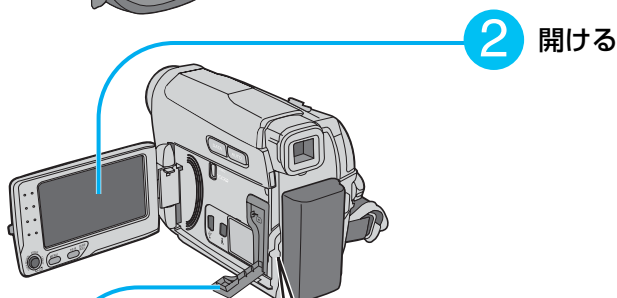
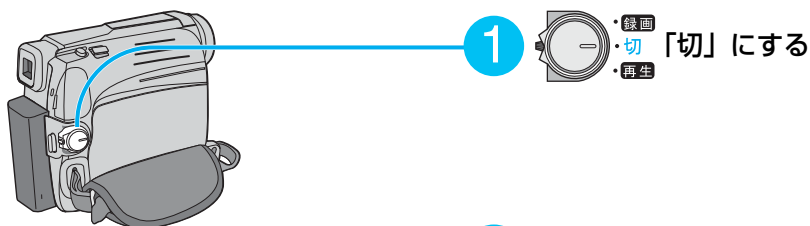
テープを入れる

動画 (以下、ムービー) を撮影するには、別売のミニ DV カセットテープ (以下、テープ) を使います。

準 備
- ●バッテリーを取り付ける (P.15)
- ●AC アダプターで充電する (P.16)

■テープを取り出すには
手順 1 のあと、テープを取り出し、手順 3 と手順 4 を行う。

カードを入れる

静止画を撮影するには、市販の SD メモリーカードやマルチメディアカード（以下、カードと総称）を使います。

■カードを取り出すには
手順 3 のあと、カードを「カチッ」と音がするまで押し込み、取り出す。

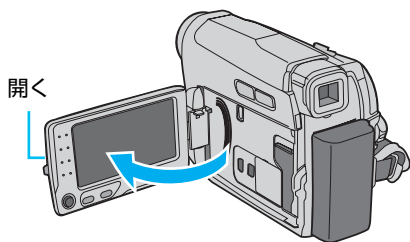
■新しく買ったカードを使うには
はじめて使用するときは、「フォーマット」(P.75) が必要です。

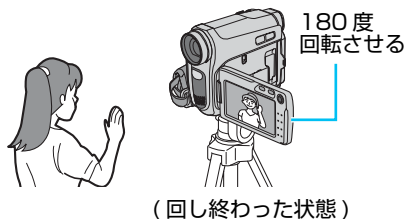
■動作確認済みのカード
「静止画の撮影可能枚数の目安」(P.93)

画面を準備する

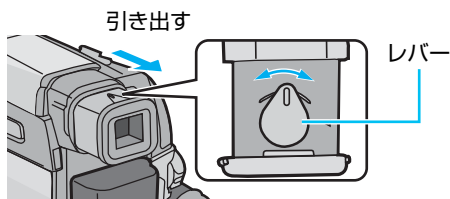
液晶画面を使う

ファインダーと比べて、映像や表示内容が大きくて見やすい特徴があります。

（回し終わった状態）

■画面の明るさを調節するには
「画面明るさ」(P.73)

■自分を撮るには
液晶画面を開いたあと、図の方向へ180 度回す。
元に戻すときは、逆の方向へ回す。

■対面撮影するには
液晶画面を 180 度回転させてファインダーを引き出すと、撮影画面を被写体に見せながら、ファインダーを使って撮影できる。

ファインダーを使う

周りが明るすぎて液晶画面が見えにくいときや、バッテリーの消耗を抑えたいときに使います。

■ピントがあっていないときは
ファインダーをのぞきながらレバーを動かし、画面がはっきり見えたところで止める。

■画面の明るさを調節するには
「画面明るさ」(P.73)

お知らせ ●対面撮影以外では、液晶画面を開くとファインダーの表示が消えます。液晶画面を消してファインダーを表示させるには、システムメニューの「優先設定」を「ファインダー」に設定します (P.73)。

準備する 5 時計をあわせる

お買い上げ時に年月日と時刻表示を設定してください。
海外旅行の際にも設定することをお勧めします。

1 「録画」にする

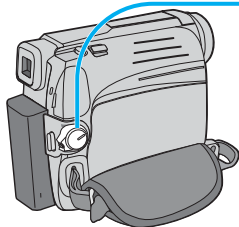
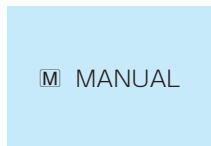
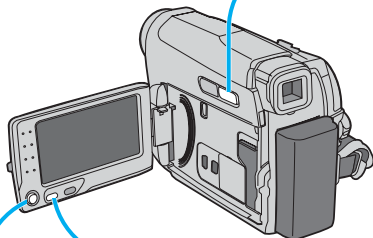
・録画
・切
・再生

2 「Ⓜ MANUAL」が表示されるまで、繰り返し押す

AUTO

Ⓜ MANUAL

数秒後、画面左上に Ⓜ が表示されます

3 押す

メニュー

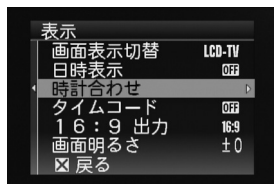
メニューが表示されます

4 レバーを▲▼に動かして「表示」を選び、

レバーを押して決定する

5 「時計合わせ」を▲▼で選び、

押して決定する

年月日の表示順序が反転します

「年、月、日」を▲▼で選び、

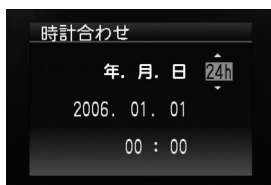
押して決定する

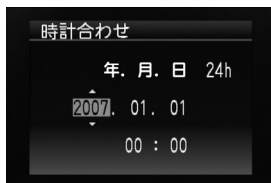
・ 好みに応じて、「月、日、年」や「日、月、年」を選ぶこともできます

時刻の表示方法が反転します

「24h」または「12h」を▲▼で選び、

押して決定する

西暦が反転します

西暦を正しく設定し、

押して決定する

月日と時刻を順に同様に設定し、

押して決定する

・ 手順 7 で「12h」を選んだときは、午前／午後 (AM ／ PM) も設定する

手順 5 の画面に戻ります

メニュー

押す

メニューが消えます

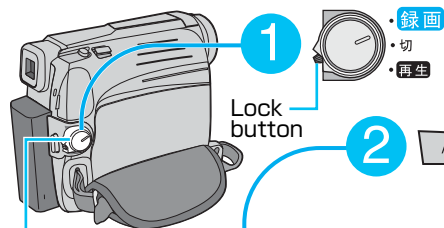
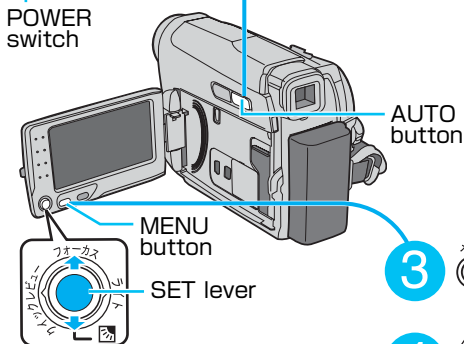
■ 1 つまえの操作に戻るには

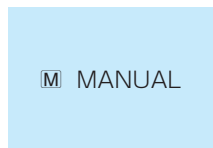
決定レバーを◀に動かす。

時計用電池について

時刻を設定しても「日時を設定して下さい」と表示され続けるときは、時計用の内蔵電池が消耗しています。お買い上げの販売店、または最寄りのビクターサービス窓口へご連絡ください。

For English Users

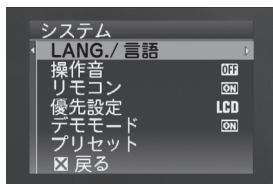
To change the Menu indications etc. to English.

1. Set the POWER switch to "録画" while pressing down the LOCK button located on the switch.

2. Press AUTO button.
until "Ⓜ MANUAL" is displayed on the screen.

Ⓜ MANUAL

After a few seconds, Ⓜ icon is displayed on the left of the screen.

3. Press MENU button.

4. Move SET lever up or down to select "システム" and press SET lever.

5. Move SET lever up or down to select "LANG" and press SET lever.

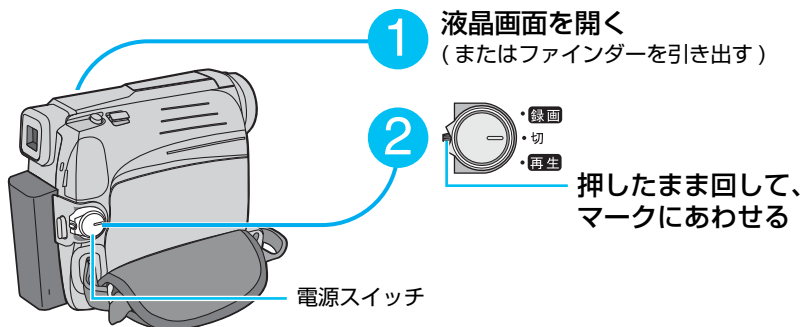
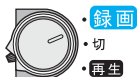
6. Move SET lever up or down to select "ENGLISH" and press SET lever.
The Menu indication changes to ENGLISH.

7. Press MENU button.
The Menu screen closes.

すぐ使う 1 撮影・再生の基本操作

撮影・再生・編集など、すべての場面に共通する操作です。以降のページでは、これらの操作説明を 準 備 として省略する場合があります。

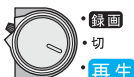
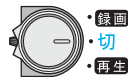
電源を入れる 電源スイッチ

■撮影するとき
「録画」にあわせる。

・録画
・切
・再生

■再生や編集するとき
「再生」にあわせる。

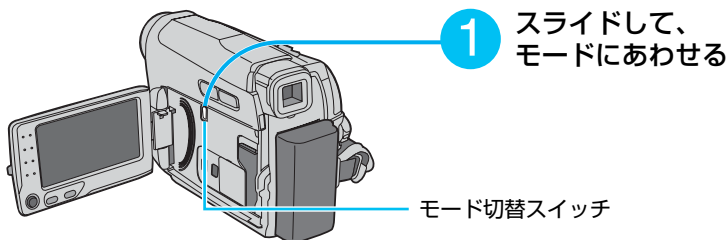
・録画
・切
・再生

■電源を切るには
「切」にあわせる。

・録画
・切
・再生

お知らせ
- 電源スイッチが「録画」のときは、液晶画面の開閉やファインダーの出し入れで、電源の入／切ができます（クイックパワーオフ）。
- 節電とテープ保護のため、操作せずに約５分経つと電源が自動的に切れます。操作を再開するには、電源スイッチを動かすか、液晶画面を一度閉じて再び開きます。

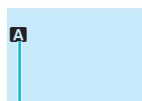
撮影に失敗しないためには

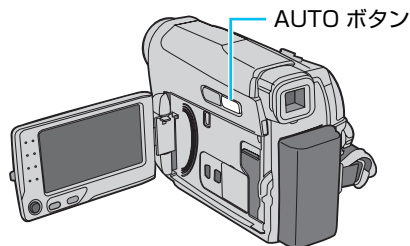
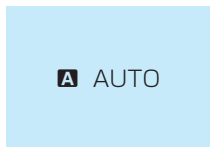
撮影時にビデオヘッドが汚れていると、正常に記録できません。
撮影のまえに試し撮りをして再生し、映像と音声が正常に記録されていることを確認してください（P.76）。

テープ／カードを選ぶ モード切替スイッチ

■ムービーを撮るとき／見るとき
「ビデオ」にあわせる。

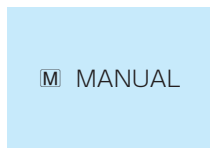
■静止画を撮るとき／見るとき
「メモリー」にあわせる。

簡単に撮影する AUTO ボタン

全自動で撮影したいときは、オート撮影にします。画面左上に A が表示されていることを確認してください。

オート撮影の表示

■表示が異なるときは
「A AUTO」が表示されるまで、AUTO ボタンを繰り返し押す。数秒後、画面左上に A が表示される。

■マニュアル撮影するときは
「M MANUAL」が表示されるまで、AUTO ボタンを繰り返し押す。数秒後、画面左上に M が表示される。

M MANUAL

ムービーを撮る

ムービーの画面比を選ぶ 16:9

撮影するムービーをワイドテレビ(画面比16:9)用にするか、標準テレビ(画面比4:3)用にするかを選択します。お買い上げ時は「16:9」に設定されています。

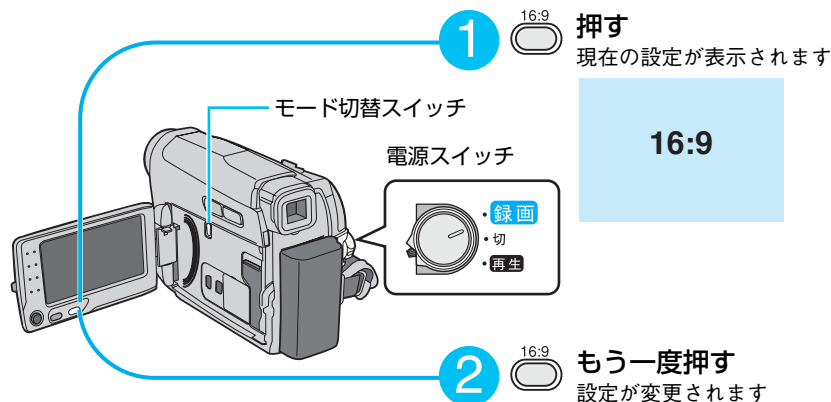
準備
- 電源スイッチ　　　　:「録画」
- モード切替スイッチ:「ビデオ」

1 16:9 **押す**
現在の設定が表示されます

16:9

2 16:9 **もう一度押す**
設定が変更されます

4:3

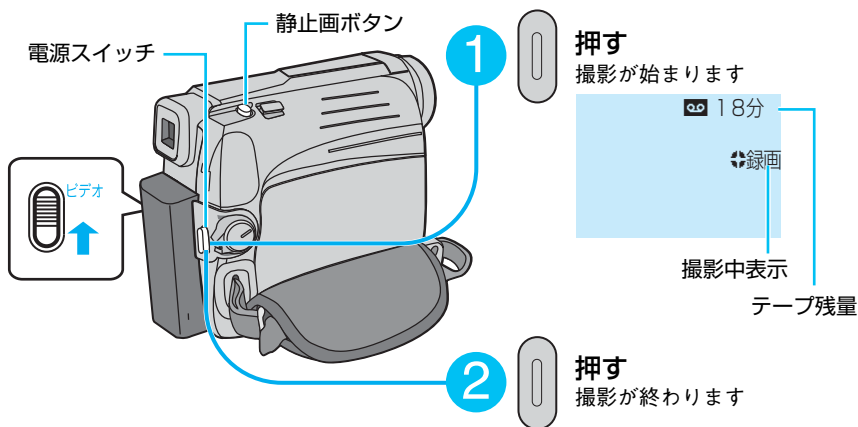
黒い帯

■「4:3」に設定したときは
液晶画面の左右に黒い帯が表示される。

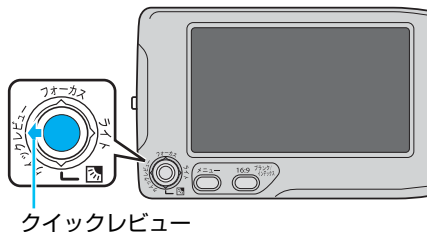
■「16:9」に設定したときは
数秒後、画面上に「16:9」と表示される。
ファインダー使用時は、画面の上下に黒い帯が表示される

■設定を変更しないときは
手順2を行わない。

お知らせ
- 「16:9」に設定して撮影したムービーをパソコンで再生するには、ワイド表示に対応したソフトウェアが必要です。

撮影する

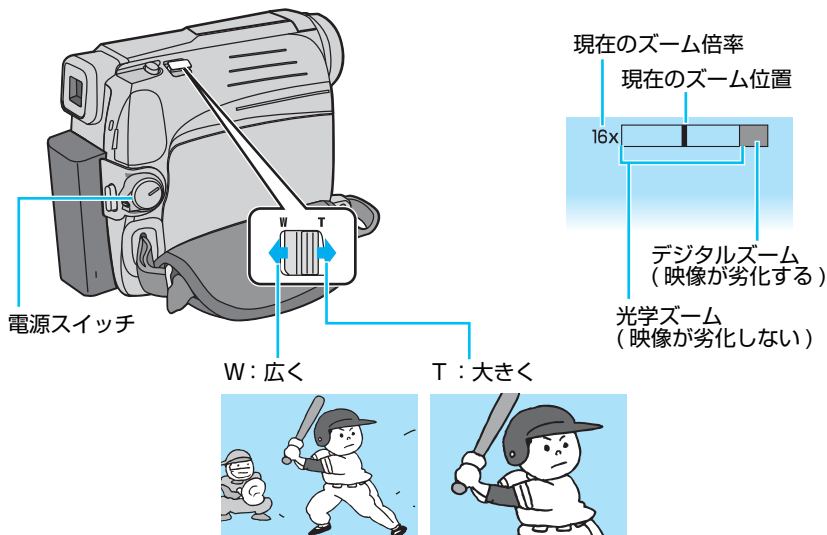
準備 ●電源スイッチ　　　：「録画」
●モード切替スイッチ：「ビデオ」

■続きから撮るには
ブランクサーチする (P.31)。

■撮影のまえに直前のムービーを確かめるには
決定レバーを ◀(クイックレビュー) に動かす。数秒分のテープが巻戻って再生され、再生が終わると元の状態に戻る。

■ムービーと同時に静止画を撮るには (デュアル REC.)
静止画ボタンを押す。撮った静止画がカードに記録され、画面に小さく確認表示されます。確認表示は、ムービーに記録されません。
撮影前に、VTR メニューの「静止画 / スロー」を「静止画」に、「静止画記録」を「➡M」に設定しておきます (P.71)。

お知らせ ●テープ残量が表示されるまで、撮影開始から約 10 秒かかります。
●デュアル REC. で撮った静止画の画質 (解像度) は、メモリーモードで撮った静止画より低くなります。

すぐ使う 3 大きく／広く撮る（ズーム）

被写体を大きくしたり (望遠：T)、撮影する範囲を広くしたり (広角：W)、撮影中に自由に調節できます。

準 備
- ●電源スイッチ　　　　：「録画」
- ●モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」

■接写するには
W 側いっぱいまで動かす。被写体に約 5cm まで接近できる。

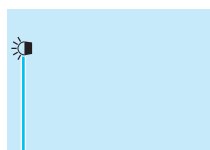
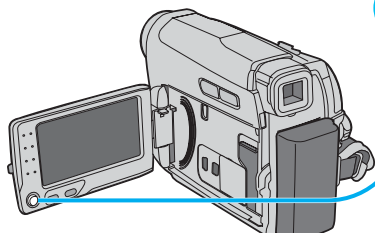
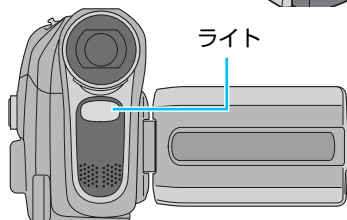
■ズーム倍率の上限を変更するには
カメラメニューの「ズーム」でズーム倍率の上限を設定する (P.69)。

■モード切替スイッチを「メモリー」にあわせたときは
ズーム倍率の上限が、光学ズームの範囲 (34 倍) になる。

すぐ使う 4 ライトで照らす

ご注意 ●ライトを直視しないでください。特に、小さなお子さまの目に光が直接入らないようにご注意ください。

準備 ●電源スイッチ　　　　：「録画」
●モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」

1 レバーを▶に動かす
ライトが点灯します

2 次の２つに注意して撮影する
・画面の中央に被写体をおく
・ライトを指で隠さない

■暗いときに自動的に点灯させるには
決定レバーを▶(ライト)へ２回動かして、表示を「A」にする。

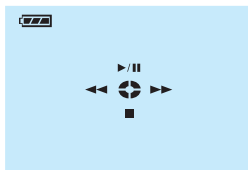
■ライトを消すには
「」や「A」が消えるまで、決定レバーを▶(ライト)へ繰り返し動かす。

お知らせ ●シャッタースピードが遅くなるためにブレやすくなります。三脚などで固定することをお勧めします。

ムービーを見る

●電源スイッチ　　　　：「再生」
●モード切替スイッチ：「ビデオ」

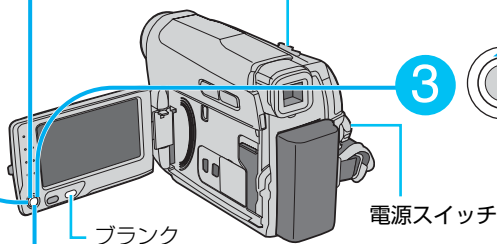
1 停止の状態で、レバーを押して、操作方法を確認する

操作ガイドが表示され、約３秒後に消えます

目的		レバー操作
▶/II	再生／一時停止	レバーを▲へ
■	停止	レバーを▼へ
◀◀	巻戻し	レバーを◀へ
▶▶	早送り	レバーを▶へ

2 レバーを◀に動かす

巻戻します

3 レバーを▲に動かす

再生します

4 レバーを▼に動かす

停止します

■スピーカーの音量を調節するには
ズームレバーを動かす。

■再生中に早送り／巻戻しするには
再生中にレバーを ◀ ▶ に動かすと、早送り／巻戻しの速度を変更できる (サーチ)。

レバー操作		1 回押す	2 回押す
◀◀	レバーを ◀ へ	3 倍速巻戻し	10 倍速巻戻し
▶▶	レバーを ▶ へ	3 倍速早送り	10 倍速早送り

なお、早送り／巻戻し中は、映像にノイズがでます。

■無記録部分を探すには (ブランクサーチ)
ブランクボタンを押す。
早送りを開始し、無記録部分の約 3 秒手前で停止します。そこから録画を開始すると、約 3 秒間映像が上書きされます。必要に応じて再生し、録画開始の位置を確認してください。

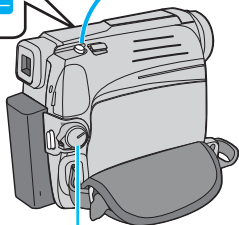
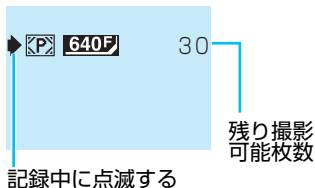
■スローモーション効果を楽しむには (ライブスロー)
メニューで「静止画 / スロー」を「スロー」に設定する (P.71)。
「静止画 / スロー」ボタンを押してから約 1.5 秒間、1/5 倍速のスローモーションで再生される。

■パソコンで見るには
「ムービーをパソコンに取り込む」(P.61)

■再生中の映像にノイズがでたり、音声がおかしいときは
ビデオヘッドをクリーニングする (P.76)。

お知らせ ●付属の AV コードを本機に取り付けていると、スピーカーから音がでません。

すぐ使う 6 静止画を撮る

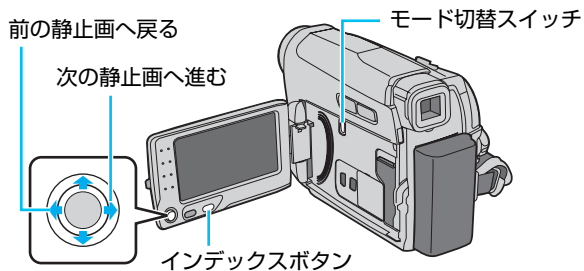
準 備
●電源スイッチ　　　　：「録画」
●モード切替スイッチ：「メモリー」

■撮った静止画をすぐ見るには
電源スイッチを「再生」にする。

■ズームするには
ズームレバーを動かす (P.28)。

■より多く撮るには
画像サイズを変更する (P.69)。

お知らせ
●メモリーモードでは、画面比「16:9」で記録できません。
●節電のため、操作せずに約 5 分経つと電源が自動的に切れます。撮影を再開するには、電源スイッチを動かすか、液晶画面を一度閉じて再び開きます。
●撮影可能枚数は、お使いのカードの容量や、静止画の画像サイズによって変わります (P.93)。
●静止画は、付属の USB ケーブルを使ってパソコンにバックアップできます (P.54)。

すぐ使う 7 静止画を見る

準 備　●電源スイッチ　　　　：「再生」
●モード切替スイッチ：「メモリー」

続けて再生する スライドショー

1 **レバーを ▲(▶/Ⅱ) に動かす**
スライドショーが始まります

2 **レバーを ▼(■) に動かす**
スライドショーが停止します

■逆方向に再生するには
スライドショーの再生中に、レバーを ◀(◀◀) に動かす

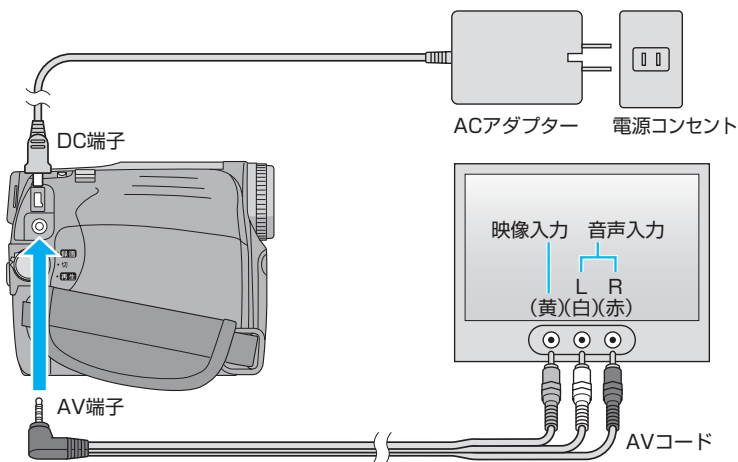
一覧で表示する インデックス

1 インデックス **押す**
インデックスが表示されます

2 **静止画を選び、**

決定する

すぐ使う 8 テレビで見る

準備 ●テレビの表示を、ビデオカメラを接続した外部入力 (ビデオ 1、ビデオ 2 など) にあわせる
●テレビの画面比 (16:9 または 4:3) にあわせて、表示メニューの「16:9 出力」を設定する (P.73)

■再生するには
ビデオカメラで見るときと同じ操作で再生する (P.30)。

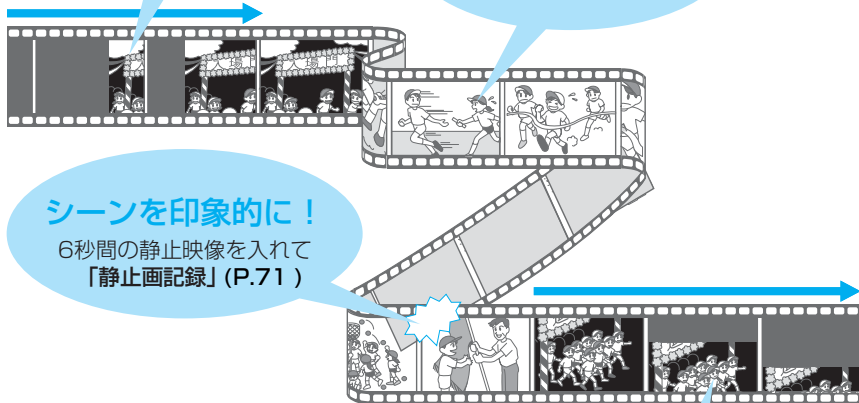
■日付などを表示するには
メニューで「画面表示切替」を設定する (P.73)。

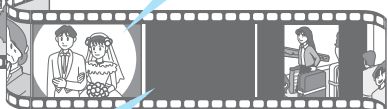
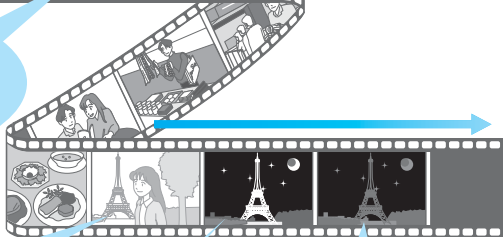
■ダビングするには
「ダビングする」(P.46)

お知らせ ●お使いのテレビの説明書もあわせてご覧ください。
●「16:9」に設定して撮影したムービーを標準テレビ (画面比 4:3) で表示すると、画面の上下に黒い帯が表示されます。
●「4:3」に設定して撮影したムービーをワイドテレビ (画面比 16:9) で表示すると、テレビの設定によっては、画面の左右に黒い帯が表示されることがあります。

もっと撮る 1

撮影効果を演出する

マニュアル撮影 (P.38) では、目的やシーンにあわせて撮影できます。効果の種類や設定方法については、「機能メニュー」(P.65) をご覧ください。

シーンの幕開けは…
フェードインで美しく演出
「場面切替:白」

スポットライト
照明の中の人物を美しく！
「プログラムAE:スポットライト」

違う場面の境目に
続けて撮っても自然につながる
「場面切替:スライド」

セピア色の思い出
古い映画の雰囲気で…
「演出効果:セピア」

シーンの幕引きに…
フェードアウトで更けてゆく夜を
「場面切替:黒」

夜景もキレイ！
自然な映像で
「プログラムAE:夜景」

マニュアル撮影をする

ピントを手動で調節したいときや、映像に効果 (エフェクト) を加えて撮影したいときなどは、あらかじめマニュアル撮影に切り替えます。

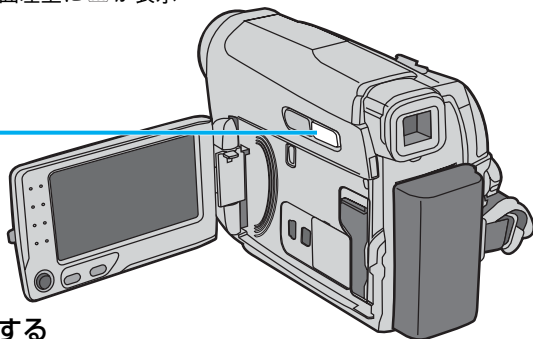
準備
- 電源スイッチ ：「録画」
- モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」

1

AUTO

「Ⓜ MANUAL」が表示されるまで、繰り返し押す

Ⓜ MANUAL

数秒後、画面左上にⓂが表示されます

2 調節または設定する

- ピントを手動であわせる (P.39)
- 明るさを補正する (P.40)
- 映像に変化をつける (P.65)
- その他を設定する (P.68)

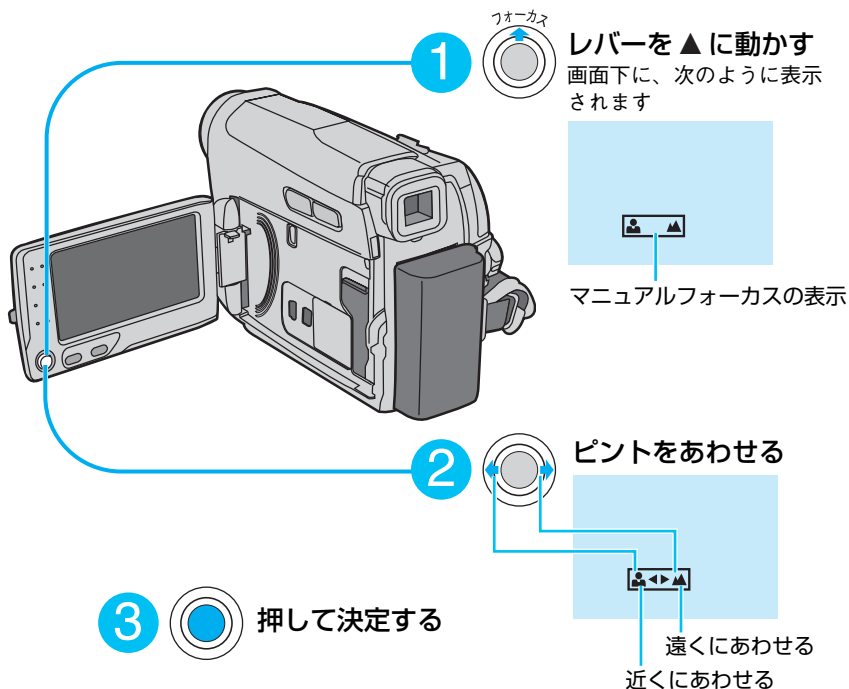
3 撮影する

- ムービーを撮る (P.26)
- 静止画を撮る (P.32)

お知らせ
- 手順 2 の調節および設定は、オート撮影 (Ⓐ) に設定する (P.25) と一時的に解除されます。しかし、マニュアル撮影 (Ⓜ) に戻すと、再び同じ条件で撮影できます。

もっと撮る 3 ピントを手動であわせる（マニュアルフォーカス）

通常の自動撮影 (オートフォーカス) でピントがあいにくい場合や、画面端の被写体にピントをあわせたいときなどに行います。

準 備
●電源スイッチ ：「録画」
●モード切替スイッチ ：「ビデオ」または「メモリー」
●AUTO ボタン ：M を表示する (P.38)

■オートフォーカスに戻すには
決定レバーを ▲(フォーカス) へ 2 回動かして表示を消す。

■ズームするときは
望遠 (T) 側でピントをあわせてから広角 (W) 側にズームすると、ピントがあいやすい。

もっと撮る 4

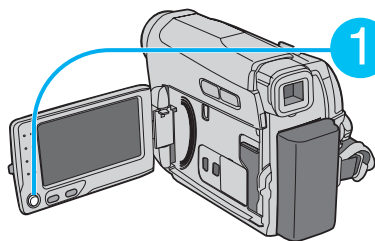
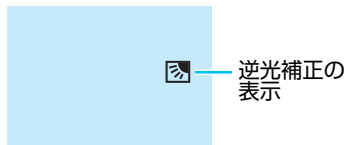
明るさを補正する

逆光で撮る 逆光補正

被写体の背後から光がさしているとき、被写体が暗くならないようにします。

準 備
- 電源スイッチ　　　　　：「録画」
- モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」
- AUTO ボタン　　　　：M を表示する (P.38)

が表示されるまで、レバーを ▼ へ繰り返し動かす

逆光補正の表示

■通常の撮影に戻すには

や が消えるまで、決定レバーを ▼( ) へ繰り返し動かす。

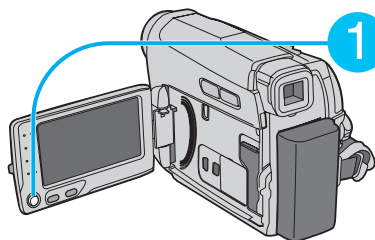
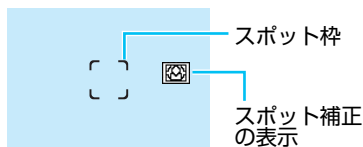
最適な明るさにする スポット補正

逆光補正がうまくいかないときや、被写体の一部にあわせて明るさを補正したいときなどに使います。

準 備
- 電源スイッチ　　　　　：「録画」
- モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」
- AUTO ボタン　　　　：M を表示する (P.38)

が表示されるまで、レバーを ▼ へ繰り返し動かす

スポット枠

スポット補正の表示

スポット枠に被写体をあわせ、

押して決定する

■通常の撮影に戻すには
[icon]や[icon]が消えるまで、決定レバーを▼([icon])へ繰り返し動かす。

■明るさを固定するには
手順２で決定レバーを２秒以上押し続け、[icon]の隣に[L]を表示させる。

お知らせ ●機能メニューの「演出効果」を「ストロボ」に設定すると、スポット補正を使用できません (P.66)。

手動で明るさを補正する

準 備 ●電源スイッチ ：「録画」
●モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」
●AUTO ボタン ：[M] を表示する (P.38)

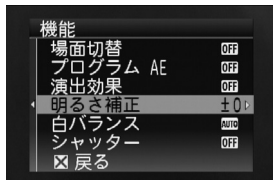
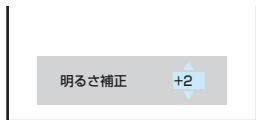
1 機能メニューで「明るさ補正」を選び (P.65)、

押して決定する

2 数値を調節し、

押して決定する

明るさ補正 +2

3 メニュー 押す
メニューが消えます

明るさ補正の表示
(－６～＋６)

■通常の撮影に戻すには
機能メニューで「明るさ補正」を「± 0」に設定する (P.66)。

■明るさを固定するには
手順２で決定レバーを２秒以上押し続け、明るさ補正の数値の隣に[L]を表示させる。もう一度決定レバーを押して通常の画面に戻ると、明るさ補正の表示の隣に[L]が表示される。

もっと撮る 5

静止画を削除する

カードの容量がいっぱいになったときや、パソコンなどに取り込んで保存したあとは (P.54)、不要な静止画を削除しましょう。

● 電源スイッチ　　　　：「再生」
● モード切替スイッチ：「メモリー」

1 メニュー 押す

メニューが表示されます

プロテクト
削除
DPOF
番号リセット
フォーマット
画面表示
画面明るさ
☒ 戻る

2 「削除」を選んで、

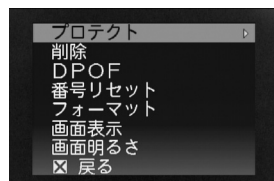
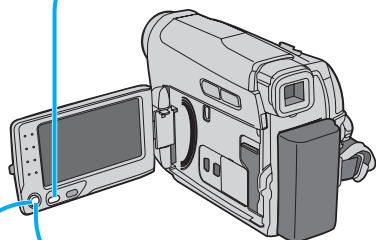
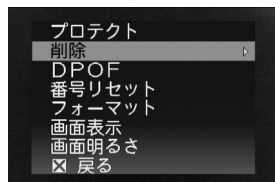
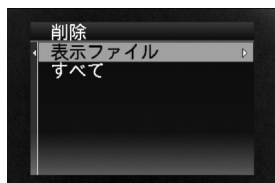
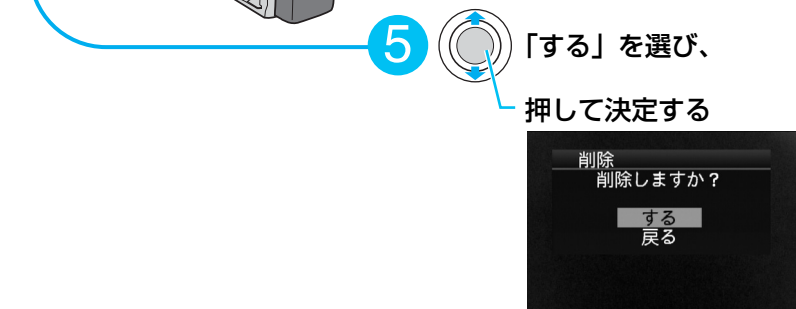
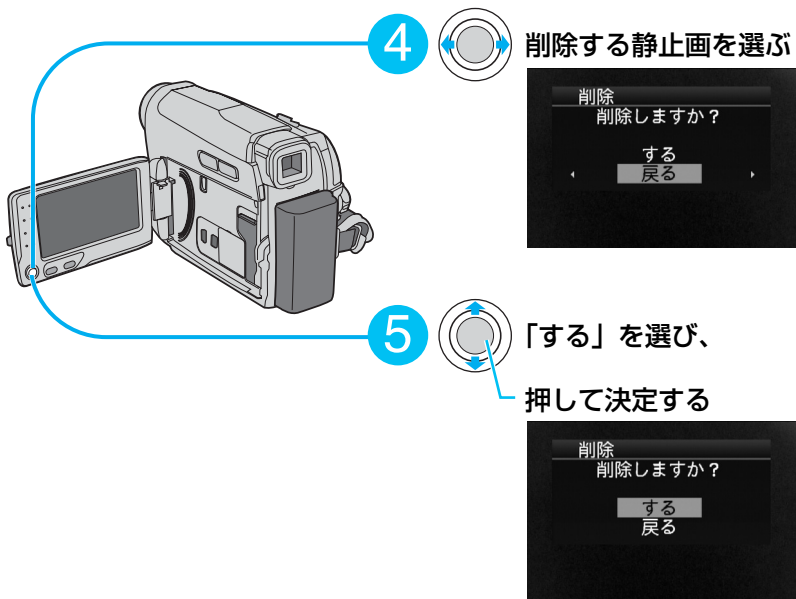
押して決定する

プロテクト
削除
DPOF
番号リセット
フォーマット
画面表示
画面明るさ
☒ 戻る

3 「表示ファイル」を選び、

押して決定する

削除
表示ファイル
すべて

4 削除する静止画を選ぶ

5 「する」を選び、押して決定する

■削除を終えるには

手順５で「戻る」を選んで決定し、メニューボタンを押してメニューを消す。

■すべての静止画を削除するには

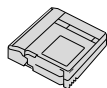
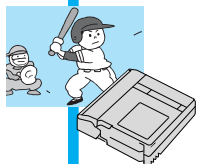
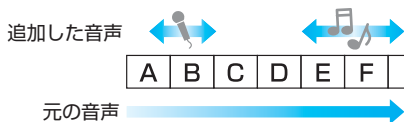
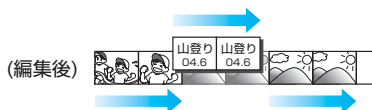
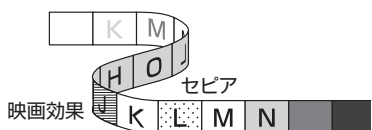
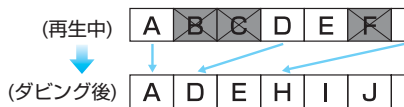
手順３で「すべて」を選んで決定し、「する」を選んで決定する。

お知らせ

●削除した画像は元には戻りません。削除するまえに、内容をよく確認してください。

●プロテクト (P.75) された画像は削除できません。プロテクトを解除してから削除してください。

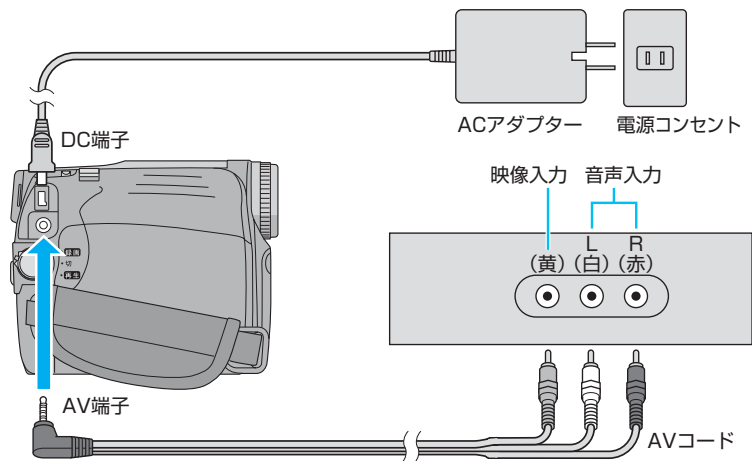
編集する 1 いろいろな編集

テープに撮影したムービーは、いろいろな方法で編集できます。映像を直接加工したり、ダビングやコピーしたりできます。

編集のしくみ	ページ
●元の音声はそのまま、 ナレーションや BGM を追加！ ●再生する音声も後から選べる。	P.50 P.52
●元の映像の上に、 タイトルや場面を挿入！	P.50 P.51
●効果をつけた映像をダビング！ ●アップや雰囲気づくりも簡単。	P.10 P.46
●不要な場面は 飛ばしてダビング！	P.10 P.46
●写真プリントができる！ ●パソコンに取り込んで、 メールやホームページに活用！	P.53 P.54
●IEEE1394端子付きパソコンへ ● DV 編集ソフトで自在に編集！ ●編集後にホームページに活用！ ● DVD ビデオの作成も！	P.61

編集する 2 ダビングする

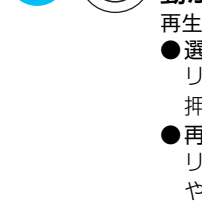
ビデオカメラのテープから、ビデオ機器のディスクやテープへダビング (複製) して保存できます。

接続する

準 備
- 電源スイッチ ：「切」
- ビデオ機器の入力設定を、ビデオカメラを接続した外部入力 (ビデオ 1、ビデオ 2 など) にあわせる

再生側(ビデオカメラ) → **録画側 (ビデオ機器)**

■デジタルダビングするときは
ビデオカメラの DV 端子と、ビデオ機器の DV 入力端子を、DV ケーブル (市販) で接続する。AV コードは使いません。
デジタルダビングでは、メニュー、タイムコード、日時などの表示はダビングされません。

お知らせ ●お使いのビデオ機器の説明書もあわせてご覧ください。

ダビング（複製）する

再生側（ビデオカメラ）	録画側（ビデオ機器）
	（ビクター製ビデオデッキの場合）

「再生」にする

電源が入ります

●映像に効果をつけるには
リモコンの「演出効果」を押して効果を選ぶ。

レバーを▲に動かす

再生します

●選んだ効果を消すには
リモコンの「入／切」を押す。

●再生画面をズームするには
リモコンの「T」（大きく）や「W」（広く）を押す。

「録画」ボタンでダビングを始める

●飛ばしたい場面があるときは
「一時停止」ボタンで止め、「再生」ボタンで録画を再開する。

「停止」ボタンでダビングを終える

レバーを▼に動かす

停止します

■日付などの表示を消すには
手順 1 のあと、メニューで次のように設定する (P.73)。
・画面表示切替 :「切」または「モニター」
・日時表示 :「切」
・タイムコード :「切」

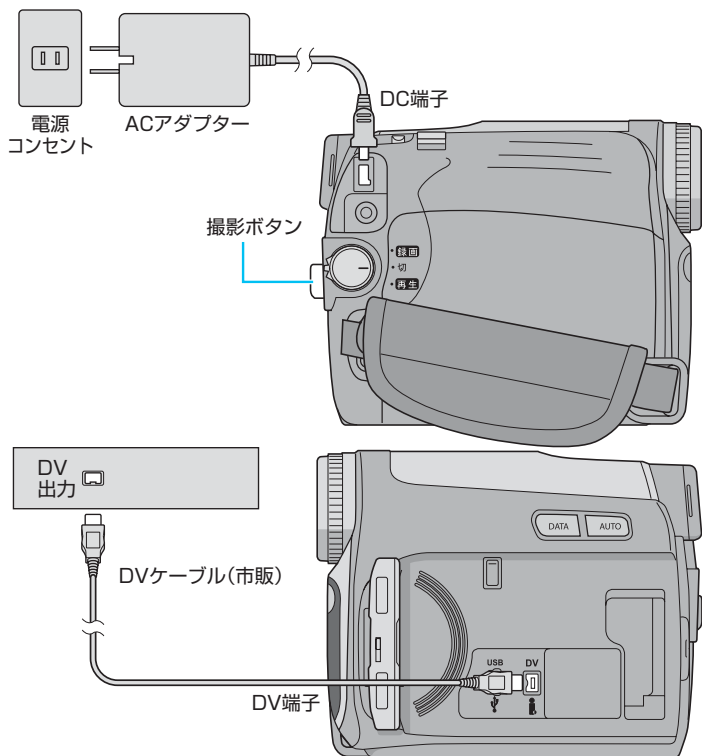
お知らせ ●ビデオ カメラで無記録部分や映像の乱れた部分を再生すると、異常な映像が記録されたり、ダビングが停止することがあります。

編集する 3 ビデオ機器から録画する

DV 出力端子 (i.LINK 端子) のあるビデオ機器 (デジタルビデオカメラなど) を本機のほかにお使いの場合、その映像を DV ケーブル (市販) を使って本機へ録画できます。

接続する

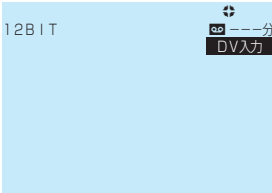
- 電源スイッチ ：「切」
- 本機にテープを入れる (P.18)

再生側 (ビデオ機器) → 録画側 (ビデオカメラ)

1 図のように接続する

2 「再生」にする

・録画
・切
・再生

お知らせ ●お使いのビデオ機器の説明書もあわせてご覧ください。
●DV 出力端子のないビデオ機器からは、その映像を本機へ録画できません。

録画する

準備 ●VTR メニューで「録画モード」を設定する (P.71)

再生側 (ビデオ機器)	録画側 (ビデオカメラ)
1 電源を入れる	2 撮影ボタンを押す 録画待機状態になります
3 再生する	4 押す 録画が始まります
6 停止する	5 押す 録画が終わります

12BIT
---分
DV入力

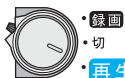
お知らせ ●お使いのビデオ機器などや再生するテープにより、映像が乱れることがあります。

映像や音声を追加する

追加の準備をする

ムービーに映像や音声を追加するときは、あらかじめ次の操作を行います。

準 備
- ●付属のリモコンを用意する
- ●モード切替スイッチ：「ビデオ」

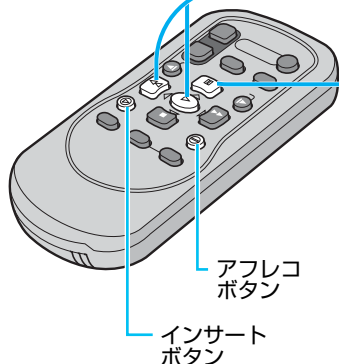
1 撮影、再生の両方の表示メニューで「タイムコード」を「入」に設定する（P.73）

2 電源スイッチを「再生」にあわせる

3 再生する

4 追加を終える位置まで巻戻す

5 一時停止し、タイムコードを紙などに控える

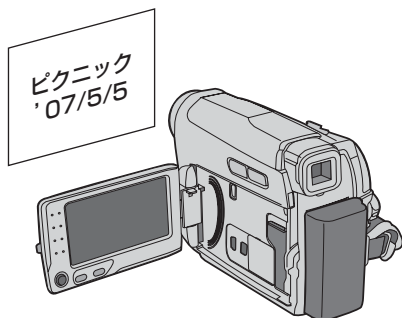
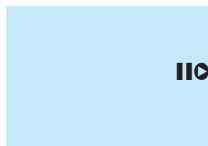
6 追加を始める位置まで巻戻す

7 一時停止する
↓
インサート編集（P.51）またはアフレコ編集（P.52）へ進む

お知らせ ●テープの無記録部分や誤消去防止ツマミが「SAVE」側になっている場合は、編集できません。

映像を追加する インサート編集

タイトルなど別の場面を、元の映像に上書きして追加できます。

お知らせ ●LP モード (P.71) で撮影したムービーには、映像を追加できません。

準備
●付属のリモコンを用意する
●追加の準備をする (P.50)

1 一時停止 を押したまま、インサート を押す
撮影待機になります

2 追加する映像を準備する

3 スタート/ストップ 撮影を始める

4 タイムコードが控えておいた数値 (追加を終える位置) になるときに、
スタート/ストップ 撮影を終える

5 停止 編集を終える

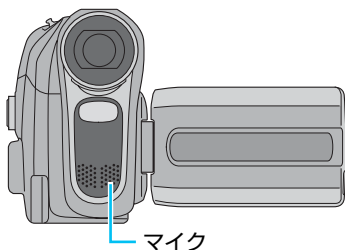
■追加する映像に効果をつけるには
機能メニューで「場面切替」や「プログラム AE」を設定する (P.66)。

はじめに 準備する すぐ使う もっと撮る 編集する 設定する 困ったときは その他

音声を追加する アフレコ編集

ナレーションやBGM、効果音などを追加できます。再生時には、元の音声と追加した音声を選んで再生できます。

お知らせ ●LP モードや 16BIT(P.71) で撮影したムービーには、音声を追加できません。

準 備
●付属のリモコンを用意する
●追加の準備をする (P.50)

1 一時停止 を押したまま、アフレコ を押す
撮影待機になります

2 再生 録音を始める

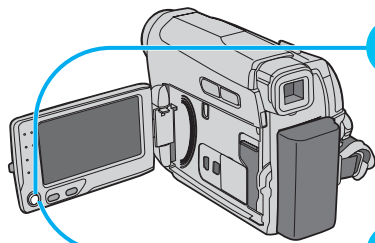
3 タイムコードが控えておいた数値 (追加を終える位置) になるときに、
停止 録音を終える

■追加した音声を聞くには
VTR メニューで「アフレコ音声」を「入」または「ミックス」に設定する (P.71)。

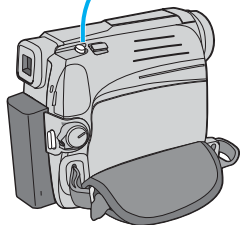
編集する 5 ムービーを静止画にする

ムービーからお好みの場面を選び、静止画としてカードにコピーします。

準 備
●電源スイッチ　　　　：「再生」
●モード切替スイッチ：「ビデオ」

1 **VTR メニューで設定する (P.71)**
・「静止画 / スロー」を「静止画」にする
・「[T] → [M] コピー」を「入」にする

2 **レバーを ▲ に動かす**
再生します

3 **コピーしたいところで、レバーを ▲ に動かす**
一時停止します

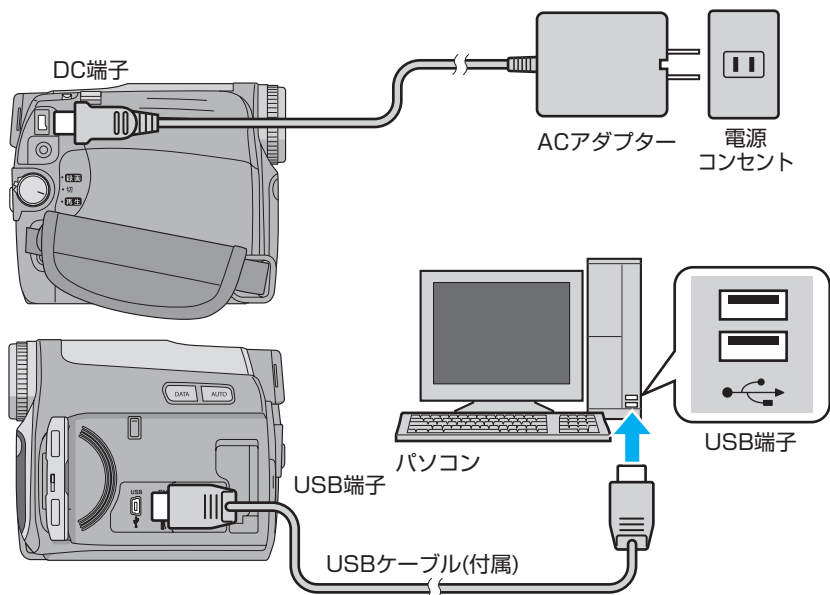
4 **押す**
表示されていた映像が、
静止画としてコピーされます

5 **レバーを ▼ に動かす**
停止します

お知らせ ●コピー後の静止画の画質 (解像度) は、メモリーモードで撮った静止画より低くなります。

編集する 6 静止画をパソコンに取り込む

USB ケーブルで接続する

付属の USB ケーブルでパソコンに接続すると、カードに記録した静止画ファイルをパソコンに取り込むことができます (P.55)。

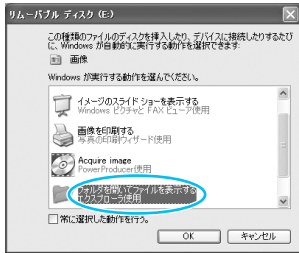
準 備
- 電源スイッチ　　　　　：「再生」
- モード切替スイッチ：「メモリー」

USB ケーブルで接続すると、パソコンの「マイコンピュータ」に、ビデオカメラのカードが「リムーバブルディスク」として表示されます。

※ Macintosh の場合は、デスクトップや Finder ウインドウのサイドバーに、「No name」アイコンが表示されます。

■動作環境 (お使いになれるパソコン)

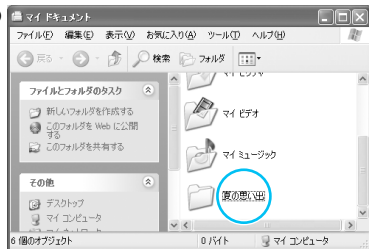
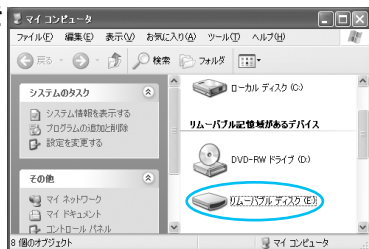
パソコン	：	USB 端子を標準装備する機種
OS	：	Windows 2000、Windows XP(すべてプリインストール版) Mac OS X 10.1.5、10.2.1 ～ 10.2.8、10.3.1 ～ 10.3.9、10.4.2 ～ 10.4.3

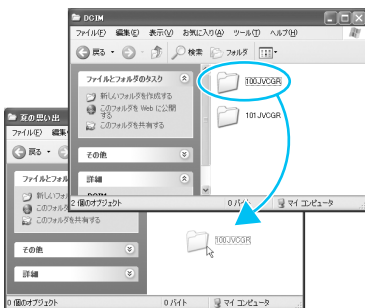
■動作を選んでくださいと表示されたときは

「フォルダを開いてファイルを表示する」をクリックし、「OK」をクリックする。

■パソコンにカードが表示されないときは

設定と接続を確認する (P.76)。

ファイルをパソコンにバックアップする

1 パソコンのなかに静止画を入れるフォルダを作る

2 カード (リムーバブルディスク) を開き、「DCIM」を開く

3 「100JVCGR」を、手順 1 のフォルダへコピーする

・「100JVCGR」をクリックしたままドラッグし、手順 1 のフォルダの上で放します (ドラッグ＆ドロップ)。
・「101JVCGR」以降のフォルダがある場合、これらもコピーします。

■静止画を表示するには

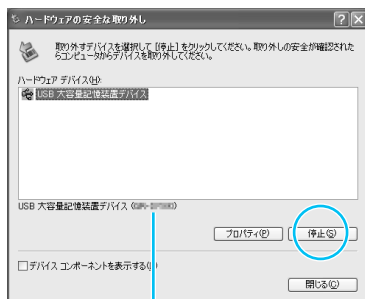
バックアップしたフォルダを開き、静止画ファイルをダブルクリックする。
拡張子 (.JPG) は、パソコンの設定によっては表示されません。

■静止画を印刷するには

Windows XP の場合、静止画ファイルを選び、「ファイル」メニューの「印刷」をクリックする。その他の OS の場合、市販の画像処理アプリケーションをご購入ください。Internet Explorer では、正しく印刷できないことがあります。

USB ケーブルを取りはずす

1 タスクトレイの「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックする

2「停止」をクリックする

3「OK」をクリックする

4「閉じる」をクリックする

5 USB ケーブルを取りはずす

■Macintosh の場合は
①カードのアイコンを Dock の「ゴミ箱」にドラッグ＆ドロップする。
② USB ケーブルを取りはずす。

お知らせ
●カードのなかには、静止画以外のフォルダやファイルも記録されています。
●カードのなかのフォルダとファイルは、パソコンで削除・移動・名称変更しないでください。

編集する 7 静止画のアルバムを作る

付属のフォト・ナビゲーターを使うと、ビデオカメラで撮影した静止画ファイルをアルバムのように管理できます。さらに、静止画ファイルの画質やサイズを変更できます。

- 静止画ファイルを読み込んでアルバムを作る
- メールに静止画ファイルを添付する
- アルバムの内容を Web ページとして保存する
- 静止画をつなげて動画 (スライドショーやアニメーション) を作る
- ファイルサイズを指定して、アルバムから静止画を取り出す

お知らせ ●フォト・ナビゲーターでは印刷できません。印刷するときはアルバムから取り出してください。

ご利用になれるパソコン

以下の条件を満たすパソコンで、フォト・ナビゲーターを使うことができます。

OS	：	以下のいずれか（ただし、プリインストール版のみをサポート） Windows 2000 Professional Windows XP Home Edition Windows XP Professional
端子	：	標準装備の USB 端子 (USB 1.1 または 2.0)
CPU	：	Intel MMX Pentium 200MHz 以上
メモリー	：	64MB 以上
HDD 空き容量	：	インストールに約 10MB 以上、アルバム作成時は 500MB 以上を推奨
ディスプレイ	：	800 × 600 ピクセル以上、16bit color を表示可能なこと
ソフトウェア	：	Internet Explorer 5.5 以降

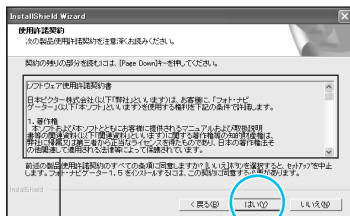
フォト・ナビゲーターをインストールする

1 付属の CD-ROM をパソコンにセットする

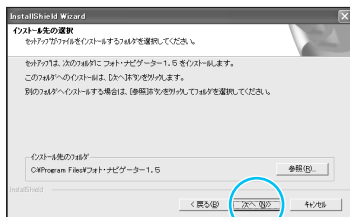
しばらくすると「使用許諾契約」が表示されます

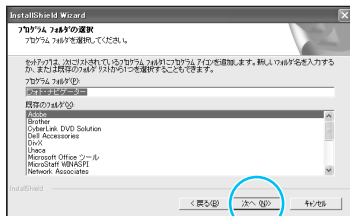
・「使用許諾契約」が表示されないときは、「マイコンピュータ」のなかの CD-ROM アイコンをダブルクリックします。

2 内容を確認し、「はい」をクリックする

「インストール先の選択」が表示されます

必ず、お読みください

3 「次へ」をクリックする

「プログラムフォルダの選択」が表示されます

4 「次へ」をクリックする

しばらくすると「デスクトップにアイコンを作成しますか？」と表示されます

5 どちらかのボタンをクリックする

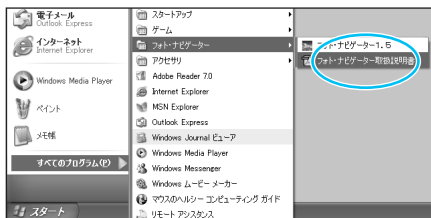
インストールが完了します

・「はい」をクリックしたときは、デスクトップにフォト・ナビゲーターのアイコンが作られます。

フォト・ナビゲーターの使いかた

PDF マニュアルの「フォト・ナビゲーター取扱説明書」をご覧ください。

1 「スタート」をクリックし、「すべてのプログラム」-「フォト・ナビゲーター」の順にマウスカーソルをあわせ、「フォト・ナビゲーター取扱説明書」をクリックする

フォト・ナビゲーター取扱説明書が表示されます

お知らせ

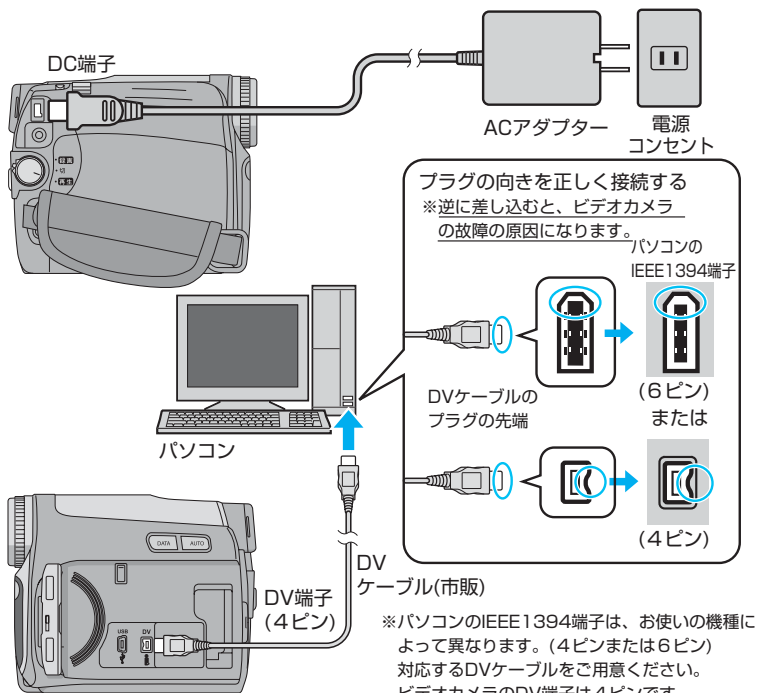
- PDF を読むには、Adobe 社の Acrobat Reader 3.0 以降、または Adobe Reader 6.0 以降が必要です。
- Adobe Reader は、Adobe 社のホームページからダウンロードできます。
  http://www.adobe.co.jp/

編集する 8 ムービーをパソコンに取り込む

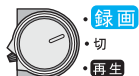
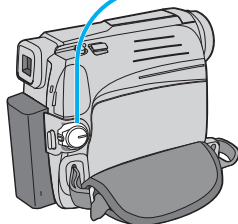
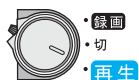
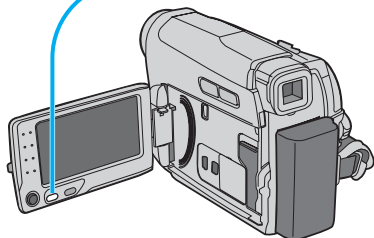
IEEE1394 端子 (i.LINK 端子／ FireWire 端子) を標準装備したパソコンをお使いの場合、DV ケーブルでパソコンとビデオカメラを接続して、ムービーをパソコンに取り込むことができます。

準備

- DV ケーブル (市販) を用意する
- 市販の DV 編集ソフトウェアをインストールする
- 電源スイッチ ：「再生」

※パソコンのIEEE1394端子は、お使いの機種によって異なります。(4ピンまたは6ピン)
対応するDVケーブルをご用意ください。
ビデオカメラのDV端子は4ピンです。

詳しくは、ご利用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

設定する 1 メニューを表示する

撮影の効果や色合い、光のバランスの変更、画面表示の切替え、編集作業など、お買い上げ時の設定を変えて操作できます。

■設定せずにメニューを消すには
メニューボタンを押す。

■すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すには
システムメニューの「プリセット」で「実行」を選ぶ (P.73)。

撮影のメニュー

準備
●電源スイッチ ：「録画」
●モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」
●AUTO ボタン ：M を表示する

メニュー	ページ
機能	P.65
カメラ	P.68
VTR(「ビデオ」のみ)	P.70
表示	P.72
システム	P.72

お知らせ ●撮影中にメニューボタンを押すと、機能メニュー(P.65) が表示されます。ほかのメニューを表示するには、撮影を停止してください。

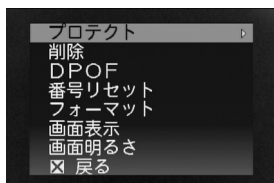
ムービーの再生や編集のメニュー

準備
●電源スイッチ ：「再生」
●モード切替スイッチ：「ビデオ」

メニュー	ページ
VTR	P.70
表示	P.72
システム	P.72

静止画の設定や整理のメニュー

準 備

●電源スイッチ　　　　：「再生」
●モード切替スイッチ：「メモリー」

メニュー	ページ
静止画の再生メニュー	P.74

設定する 2

機能メニュー

このメニューの設定は、マニュアル撮影 (M) のときに有効です。オート撮影 (A) では、一時的にお買い上げ時の設定に戻ります。

準 備
●電源スイッチ　　　　　　：「録画」
●モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」
●AUTO ボタン　　　　　：M を表示する

1 メニュー **押す**
メニューが表示されます
撮影中は、手順３の画面が表示されます

2 **「機能」を選び、**
押して決定する

3 **項目を選び、**
押して決定する

4 **項目を選び、**
押して決定する
手順３の画面に戻ります

■設定が終わったら
メニューボタンを押して、メニューを消す。

■1 つまえの操作に戻るには
決定レバーを ◀ に動かす。または「戻る」を選ぶ。

メニュー項目	選択肢と役割	ページ
機能		
場面切替（「ビデオ」のみ）	●切　：場面切替を使わない。 白　WH：白い画面でフェードイン、フェードアウト。 黒　BK：黒い画面でフェードイン、フェードアウト。 スライド：映像が右から左にワイプイン、逆向きにワイプアウト。 スクロール：映像が下から上にワイプイン、逆向きにワイプアウト。 ・場面切替を設定すると、撮影開始時（イン）と終了時（アウト）の撮影ボタンを押した直後に、設定した効果があらわれます。	P.36
プログラム AE	●切　：プログラム AE を使わずに撮影する。 スポーツ：動きの速い被写体を、1 コマ 1 コマ鮮明に撮影する。 スノー：晴れた日の雪原などで、被写体が暗く映ることを防ぐ。 スポットライト：スポットライトが当たって、被写体が明るく映りすぎることを防ぐ。 夜景：夜景などを自然な感じに撮影する。 ナイトアイ：薄暗いところでも明るく撮影する。 ・明るいときは表示が「A」から「」に変わり、一時的に通常の撮影に戻ります。 ・シャッター速度が遅くなるために、ブレやすくなります。三脚などで固定することをお勧めします。 ・真っ暗な場所では撮影できません。	P.36
演出効果	●切　：映像に変化をつけない。 セピア：古い写真のようにセピア色になる。 白黒　B/W：白黒映画のようにモノクロになる。 映画効果：速いコマ落としで、映画のような効果をだす。 ストロボ：コマ落としで、連続写真のような効果をだす。 ミラー：画面の左側にそのままの被写体を、右側に左側を反転した被写体を撮影する。 ・静止画では「セピア」と「白黒」を使うことができます。	P.36
明るさ補正	●±０　：自動的に明るさを調節する。 －６～＋６：明るさを１刻みで調節する。決定レバーの▲▼で調節し、押して決定する。	P.41

メニュー項目	選択肢と役割	ページ
白バランス	●オート　：自動的にホワイトバランス調節する。 ワンタッチ：被写体の色をより正確に調節する。 ①白い紙を用意し、画面全体に写す。 ②「」の点滅が止まるまで、決定レバーを押し続ける。 ③もう一度、決定レバーを押す。 はれ　：晴れた日の屋外で撮影するときに選ぶ。 くもり　：曇りの日や日陰で撮影するときに選ぶ。 ハロゲン　：撮影用ライトなど、照明の下で撮影するときに選ぶ。	—
シャッター	●切　：シャッター速度を自動的に調節する。 1/60～1/4000(ムービー) 1/60～1/500(静止画)　：シャッター速度を設定して、シャッター速度による撮影効果を狙う。 ・数値を小さくする(シャッター速度を上げる)と、動きの速い被写体を１コマ１コマ鮮明に撮影できる。(被写体が暗くなることがあります。) ・1/100にすると、蛍光灯のちらつきを補正できます。(50Hz地域のみ)	—

●印は、お買い上げ時の設定です。

お知らせ
●「プログラム AE」「演出効果」「シャッター」を「切」以外に設定すると、メニュー画面が約２秒間消えて、効果を確認できます。
●「演出効果」を「ストロボ」に設定すると、スポット補正 (P.40) を使用できません。
●「プログラム AE」を「スノー」や「スポットライト」に設定すると、「明るさ補正」の設定が「± 0」になります。
●逆光補正やスポット補正を使用すると (P.40)、「明るさ補正」の設定が「± 0」になります。

設定する 3 カメラメニュー

このメニューの設定は、撮影時に有効です。

準備
- ●電源スイッチ　　　　　：「録画」
- ●モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」
- ●AUTO ボタン　　　　：M を表示する

1 メニュー **押す**
メニューが表示されます

2 **「カメラ」を選び、**
押して決定する

3 **項目を選び、**
押して決定する

4 **項目を選び、**
押して決定する
手順３の画面に戻ります

■設定が終わったら
メニューボタンを押して、メニューを消す。

■1 つまえの操作に戻るには
決定レバーを ◀ に動かす。または「戻る」を選ぶ。

メニュー項目	選択肢と役割	ページ
カメラ 「ビデオ」に設定		
ズーム	●34 倍 ：光学ズームのみ。(画質が劣化しない) 68 倍 ：デジタルズームできる。(倍率を上げると、画質が劣化する) 500 倍：デジタルズームできる。(倍率を上げると、画質が劣化する)	P.28
テレマクロ	●切：ズームのＴ側で約 1m まで接近して撮影できる。 入：ズームのＴ側で約40cmまで接近して撮影できる。	―
手ぶれ補正	切：設定しない。 ●入：手ぶれによる映像のブレを低減する。 ・三脚などで固定して撮影するときは「切」にします。「入」にすると、不必要な補正が行われ、不自然な映像になることがあります。 ・次の場合は補正しきれないことがあります。 手ぶれが大きいとき。 被写体にコントラスト (明暗差) がほとんどないとき。	―
感度アップ	切 ：暗いときも自然のままの明るさで撮影する。 ●AGC ：暗いときは電気的に明るさを調節する。 オート☀A：暗いときに AGC よりも明るく調節する。	―
ウィンドカット	●切：設定しない。 入：風による雑音を低減する。	―

メニュー項目	選択肢と役割	ページ
カメラ 「メモリー」に設定		
テレマクロ	＊上の表と同じ。	―
感度アップ	＊上の表と同じ。	―
画像サイズ	●640 × 480 F：高画質 (撮影枚数が少ない)。 640 × 480 S：撮影枚数が多い。	―

●印は、お買い上げ時の設定です。

設定する 4 VTR メニュー

このメニューの設定は、ムービーの撮影用と再生用があります。

準備

- ●電源スイッチ　　　　：「録画」または「再生」
- ●モード切替スイッチ：「ビデオ」
- ●AUTO ボタン　　　：M を表示する (撮影時)

1 メニュー **押す**
メニューが表示されます

2 **「VTR」を選び、押して決定する**

画面は再生時

3 **項目を選び、押して決定する**

VTR
録画モード SP
アフレコ音声 OFF
静止画／スロー
[T]→[M] コピー OFF
音声切替
戻る

4 **項目を選び、押して決定する**
手順３の画面に戻ります

音声切替
ステレオ
音声　L
音声　R

■設定が終わったら
メニューボタンを押して、メニューを消す。

■1 つまえの操作に戻るには
決定レバーを◀ に動かす。または「戻る」を選ぶ。

メニュー項目	選択肢と役割	ページ
VTR(撮影時)		
録画モード	● SP：標準モード。(大切な録画に) LP LP：長時間モード。撮影時間が SP モードの 1.5 倍になる。 ・LP モードで撮影したテープは、本機で再生することをお勧めします。ほかのビデオ機器で再生すると、モザイク状のノイズがでたり、再生できないことがあります。	P.4
音声モード	● 12BIT：ほかの DV 機器でアフレコ編集できる。 16BIT：高音質で録音する。	—
静止画 / スロー	● 静止画：静止画 / スローボタンを押すと、「静止画記録」で設定した方法で撮影する。 スロー：静止画 / スローボタンを押してから約 1.5 秒間、1/5 倍速のスローモーションが録画される。(ライブスロー) ・画面比が「16:9」に設定されていると、ライブスローは使用できません。	P.31
静止画記録	➡テープ：静止画ボタンを押してから約 6 秒間、静止した映像がテープに録画される。 ➡テープ／➡M：上記の録画と、下記の撮影を、同時に行う。 ● ➡M：静止画ボタンを押すと、静止画を撮影する(デュアル REC.)。 ・機能を使うには、「静止画 / スロー」を「静止画」に設定します。	P.27

メニュー項目	選択肢と役割	ページ
VTR(再生時)		
録画モード	＊上の表と同じ。	P.4 P.49
アフレコ音声	● 切：撮影時の音声を再生する。 入：アフレコ音声を再生する。 ミックス：撮影時の音声とアフレコ音声を同時に再生する。	—
静止画 / スロー	＊上の表と同じ。	—
[T] → [M] コピー	● 切：通常の撮影をする。 入：ムービーの 1 コマを、静止画としてカードにコピーする。	P.53
音声切替	● ステレオ：左右の音声を両方とも再生する。 音声 L L：左の音声のみ再生する。 音声 R R：右の音声のみ再生する。	—

●印は、お買い上げ時の設定です。

設定する 5

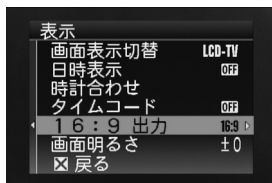
表示／システムメニュー

これらのメニューの設定は、撮影時と再生時に有効です。

準 備

- ●電源スイッチ　　　　：「録画」または「再生」
- ●モード切替スイッチ：「ビデオ」または「メモリー」
- ●AUTO ボタン　　　　：M を表示する (撮影時)

1 メニュー **押す**
メニューが表示されます

2 **「表示」または「システム」を選び、**
押して決定する

3 **項目を選び、**
押して決定する

4 **項目を選び、**
押して決定する
手順３の画面に戻ります

■設定が終わったら
メニューボタンを押して、メニューを消す。

■1 つまえの操作に戻るには
決定レバーを ◀ に動かす。または「戻る」を選ぶ。

メニュー項目		選択肢と役割	ページ
表示			
画面表示切替	撮影時	モニター：テレビやビデオ機器に、文字や記号を出力しない。 ●モニター /TV：テレビやビデオ機器に、画面と常に同じ表示を出力する。	P.11 P.34
	再生時	切：画面、テレビ、ビデオ機器に、文字や記号を出力しない。 ●モニター：テレビやビデオ機器に、文字や記号を出力しない。 モニター /TV：テレビやビデオ機器に、画面と常に同じ表示を出力する。	
日時表示		●切：表示しない。 入：表示する。 ・撮影時用と再生時用に、それぞれ設定します。	P.11 P.34
時計合わせ		年月日・時刻とその表示方法を設定する。	P.21
タイムコード（「ビデオ」のみ）		●切：表示しない。 入：表示する。 ・撮影時用と再生時用に、それぞれ設定します。	P.11
16:9 出力		4:3TV：標準テレビ (画面比 4:3) に接続する。 ●16:9TV：ワイドテレビ (画面比 16:9) に接続する。	P.34
画面明るさ		−5 ～± 0 ～+ 5 の範囲で、画面の明るさを調節する。決定レバーの▲▼で調節し、押して決定する。	P.20

メニュー項目	選択肢と役割	ページ
システム		
LANG./ 言語	●日本語：メニューなどを日本語で表示する。 ENGLISH：メニューなどを英語で表示する。	P.23
操作音	切：操作音を消す。 ●入：操作するごとに操作音を鳴らす。	—
リモコン	切：リモコン操作を受け付けない。 ●入：リモコンで操作できる。	P.10
優先設定	●液晶モニター：液晶画面を優先的に使う。 ファインダー：ファインダーを優先的に使う。 ・液晶画面を開いてファインダーを引き出した場合、どちらを優先的に表示するかを設定します。	P.20
デモモード（撮影時のみ）	切：設定しない。 ●入：テープを入れずに電源スイッチを「録画」にあわせると、機能の一部をデモで確認できる。	—
プリセット	実行：メニューの設定をお買い上げ時の状態に戻す。 キャンセル：システムメニューの一覧に戻る。	—

●印は、お買い上げ時の設定です。

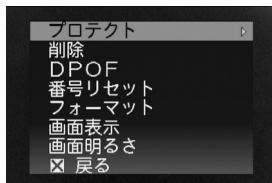
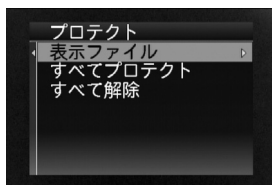
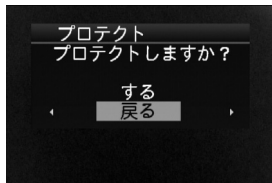
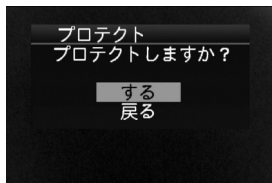
設定する 6 静止画の再生メニュー

このメニューは、静止画の撮影時と再生時に有効です。

準 備
●電源スイッチ　　　　：「再生」
●モード切替スイッチ：「メモリー」

1 メニュー **押す**
メニューが表示されます

2 **項目を選び、**
押して決定する

3 **項目を選び、**
押して決定する

プロテクト
表示ファイル
すべてプロテクト
すべて解除

4 **静止画を選ぶ**
・ 手順３で「表示ファイル」を選んだときに行う

5 **「する」を選び、**
押して決定する

■設定が終わったら
メニューボタンを押して、メニューを消す。

■1 つまえの操作に戻るには
決定レバーを ◀ に動かす。または「戻る」を選ぶ。

メニュー項目	選択肢と役割
プロテクト	表示ファイル ： 表示した静止画を保護する、または保護を解除する。 すべてプロテクト ： すべての静止画を保護する。 すべて解除 ： すべての静止画の保護を解除する。
削除	表示ファイル ： 表示した静止画を削除する。 すべて ： すべての静止画を削除する。
DPOF	表示ファイル ： 表示した静止画の印刷枚数 (最大 15 枚) を指定する。 すべて 1 枚 ： すべての静止画を 1 枚ずつ印刷するよう指定する。 リセット ： すべての静止画の印刷枚数を 0 枚に戻す。 ・ DPOF(Digital Print Order Format) 対応のプリンターの場合、カードのなかの指定された静止画を、設定した枚数だけ、自動的に印刷できます。 ・ 静止画が 1000 枚以上あると、DPOF を設定できません。
番号リセット	する ： 新たにフォルダを作成し、「0001」からはじまるファイル名をつけて記録する。これまでの静止画を、これから撮影する静止画と区別しやすくなる。 キャンセル ： 静止画再生メニューに戻る。
フォーマット	する ： カードのなかにある静止画をすべて消去する。 キャンセル ： 静止画再生メニューに戻る。 ・ 万一、カードの読み書きができなくなるなどの不具合が生じた場合に、フォーマットすることで機能を回復できることがあります。 ・ フォーマットすると、プロテクトした静止画も消去されます。
画面表示	切 ： フォルダ番号とファイル番号 (100-0001 など)、バッテリー残量表示 ( )、静止画撮影日時を表示しない。 ●入 ： これらを表示する。
画面明るさ	−5 〜± 0 〜 +5 の範囲で、画面の明るさを調節する。決定レバーの ▲ ▼ で調節し、押して決定する。

●印は、お買い上げ時の設定です。

故障かなと思ったら…

本機にはマイコンを使用しているため、周囲の雑音や妨害ノイズにより正常に動作しないことがあります。
→まず、以下の表にしたがって対応する。
→解決しないときは、電源（バッテリーと AC アダプター）を取りはずし、再び取り付ける。
→それでも不具合があるときは、お買い上げ店、または ビクターサービス窓口へご相談ください。

	こんなときは	ここを確かめてください	ページ
再生中	**映像にノイズがでたり音声がおかしい** ●モザイク画（ブロック状のノイズ）がでる。 ●黒色やモザイク画の横しまがでる。 ●音声が途切れる。 ●音や映像がでない。 ●青い画面になる。	●ビデオヘッドが汚れています。 →ミニ DV ヘッドクリーナー（別売）でクリーニングする。 →終わったら、撮影や再生をして確認する。 ミニ DV ヘッドクリーナー (CL-DVCA) 別売 ※ヘッドが磨耗するので、長時間繰り返しクリーニングしないでください。 ※詳しくはヘッドクリーナーの説明書をご覧ください。 ■撮影に失敗しないためには 撮影時にビデオヘッドが汚れていると、正常に記録できません。 ●撮影するまえに試し撮りをする。撮影した部分を再生して、映像と音声が正常に記録されていることを確認してください。 ●ヘッドクリーナーを持ち歩く。 ●1ヶ月に 1 回は本機を使用する。 ●約 1000 時間の使用を目安に、お買い上げ店またはビクターサービス窓口へ定期点検に出す。	–

こんなときは		ここを確かめてください	ページ
再生中	映像が乱れる	●テープの無記録部分では映像が乱れることがあります。故障ではありません。	–
	巻戻しや早送りできない	●電源スイッチを「再生」にあわせる。	P.24
	テレビで再生されない	●テレビの入力切換でビデオ用に設定する。	P.34
	テレビに縦長の画像が映る	●表示メニューの「16:9 出力」を「4:3TV」に設定する。	P.73
	テレビに表示される画像が小さい	●表示メニューの「16:9 出力」を「16:9TV」に設定する。	P.73
	音が出ない	●ズームレバーを動かし、スピーカーの音量を調節する。 ●VTR メニューの「アフレコ音声」を「切」か「ミックス」に設定する。 ●AV コードを本機から取りはずす。	P.31 P.71
電源	電源が入らない	●AC アダプターを正しく接続する。 ●バッテリーを充電する。 ●画面を開くか、ファインダーを引き出す。 ●電源スイッチをいったん「切」にあわせてから、電源を入れ直す。	P.16 P.20 P.24

こんなときは	ここを確かめてください	ページ
撮影中：撮影できない	●テープの誤消去防止用つまみを「REC」にあわせる。 ●「テープ終り」と表示されていたら、テープを交換する。 ●カセットカバーを閉じる。 ●電源スイッチを「録画」にあわせる。 ●モード切替スイッチを正しく設定する。	P.18 P.24 P.25
自動でピントがあわない	●電源スイッチを「録画」にあわせる。 ●画面に Ⓜ が表示されているときは、オートフォーカスにする。 ●暗いところや明暗差のないものを撮影しているときは、マニュアルフォーカスに設定して調節する。 ●レンズにゴミや水滴などがついているときは、ゴミや水滴をきれいに拭う。	P.7 P.24 P.39
被写体が暗い	●ライトで照らす。 ●逆光補正ボタンを押す。 ●機能メニューの「プログラム AE」を「ナイトアイ」に設定する。	P.29 P.40 P.66
被写体が明るい	●逆光補正を使っているときは解除する。 ●機能メニューの「プログラム AE」を「スポットライト」に設定する。 ●機能メニューの「明るさ補正」を「ー」側に設定する。	P.40 P.66
被写体の色がおかしい	●照明や背後にいろいろな光源があるときは、機能メニューの「白バランス」を「ワンタッチ」に設定する。	P.67
映像に明るい縦の線がでる	●強い光の当たる被写体を撮影したときは、コントラストにより線がでることがあります。故障ではありません。	–

	こんなときは	ここを確かめてください	ページ
撮影中	日時表示がでない	●表示メニューの「日時表示」を「入」に設定する。	P.73
撮影中	デジタルズームできない	●設定メニューの「ズーム」を「68 倍」または「500 倍」に設定する。 ●静止画を撮影するときは、光学ズーム（34 倍まで）のみを使います。	P.69
撮影中	プログラム AE・場面切替が使えない	●AUTO ボタンを押して、Ⓜ を表示する。	P.38
撮影中	白バランスが設定できない	●機能メニューの「演出効果」を「セピア」や「白黒」に設定しているときは使えません。	P.66
液晶画面・ファインダー	画面が暗い、または白くなる	●画面の角度や明るさを調節する。 ●寒いところでは多少暗くなります。故障ではありません。 ●寿命が短くなっている可能性があります。お買い上げ店、またはビクターサービス窓口へご連絡ください。	P.73
液晶画面・ファインダー	画面の裏側が熱くなる	●画面または電源を切ってしばらく置く。（長時間使うとバックライトが熱くなります。故障ではありません。）	–
液晶画面・ファインダー	画面の表示にムラがでる	●画面やまわりを押したときは、手を離してしばらく置く。（圧迫すると映像ムラが生じます。）	–
液晶画面・ファインダー	画面が見えにくい	●ファインダーを使う。（直射日光下など周囲が明るいと見えにくくなります。）	P.20

	こんなときは	ここを確かめてください	ページ
液晶画面・ファインダー	画面に表示されない	●対面撮影時は、クイックレビュー中に表示が消えます。 ●画面を使うときは、ファインダーを引き出さない。または、システムメニューの「優先設定」を「液晶モニター」に設定する。	P.20 P.27 P.73
	ファインダーに表示されない	●画面を閉じる。または、システムメニューの「優先設定」を「ファインダー」に設定する。	P.73
カード	カードが入らない	●カードの向きを確認する。	P.19
	ファイルを削除できない	●静止画の再生メニューの「プロテクト」でプロテクトを解除する。	P.75
パソコン接続	マイコンピュータに「リムーバブルディスク」が表示されない (Windows)	●USB ケーブルを正しく接続する。 ●Windows XP の場合、「リムーバブルディスク」画面が表示されるまで待ち、「フォルダを開いてファイルを表示する」を選んで「OK」ボタンをクリックする。 ●コントロールパネルの「システム」のプロパティで、USB(Universal Serial Bus) コントローラを使えるように設定する。	P.54
	デスクトップにカードのアイコンが表示されない (Macintosh)	●USB ケーブルを正しく接続する。 ●Finder の移動メニューで「コンピュータ」を選ぶ。それでもカードが表示されないときは、OS のバージョンを確認し、動作確認済みのバージョンにアップデートする。	P.54
	通信時エラー表示が出る	●USB ケーブルを正しく接続する。	P.54

こんなときは		ここを確かめてください	ページ
その他	**充電中、ランプが点滅しない**	●低温や高温の環境で充電しているときは、許容動作温度の範囲内の環境で充電する。（範囲外の環境では、バッテリー保護のため充電を中止することがあります。）	P.94
	テープが入らない	●バッテリー残量を確認し、不足しているときは AC アダプターを接続する。 ●テープの向きを確認する。	P.17 P.18
	リモコンがきかない	●ビデオカメラのリモコン受光部に、リモコンを正しく向ける。 ●リモコンの電池を交換する。 ●システムメニューの「リモコン」を「入」に設定する。	P.6 P.10 P.73
	バッテリーステータスが表示されない	●AC アダプターを接続する。（バッテリー残量が完全になくなると、バッテリーステータスは表示されません。）	P.16 P.17
	DV ケーブル接続時、操作できない	●電源を切り、接続しなおしてから操作する。	–

■次の場合、故障ではありません
- 太陽光が映ると、画面が一瞬赤か黒になる。
- 画面やファインダーに黒い点、赤、青、緑の光る点がでる。
（画面には 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01% 以下の小さな点がでることがあります。）

こんな表示がでたら…

本機にはマイコンを使用しているため、周囲の雑音や妨害ノイズにより正常に動作しないことがあります。
→まず、以下の表にしたがって対応する。
→解決しないときは、電源 (バッテリーと AC アダプター) を取りはずし、再び取り付ける。
→それでも不具合があるときは、お買い上げ店、または ビクターサービス窓口へご相談ください。

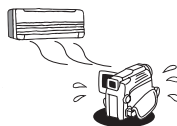
表示	ここを確かめてください
露が付きました しばらく お待ち下さい (交互に表示され、動作が停止)	(下記参照)

表示： 露が付きました / しばらく お待ち下さい (交互に表示され、動作が停止)

ここを確かめてください：

●テープを出し入れせずに 1 時間以上待ち、メッセージが消えてから使う。
※消えない場合は、お買い上げ店、またはビクターサービス窓口へご相談ください。

■つゆつきとは
冷えたビールをコップに注いだときのように、まわりに水滴が付着する状態のこと。本機で発生すると、心臓部のヘッドドラムのまわりに水滴が付着し、テープが貼りついてしまう。

■こんなときに起こりやすい
●湿気の多いとき。
●部屋を暖房した直後。
●寒いところから暖かいところに急に移動したとき (エアコンなどの冷風が直接当たるところから暑い屋外への移動など)。

■つゆつきを防ぐには
●温度や湿度の違うところに移動したときは、ビデオカメラとテープをしばらく置き、環境になじませてから使う。
●例えばスキー場で撮影後、暖房の効いた部屋に入った場合は、ビニール袋などで密封し、しばらく置いて室温になじませる。

お知らせ
●メッセージの表示まえでもレンズや保護ガラスに水滴がついている場合、ヘッドドラムにも水滴が付着している可能性があります。カセットカバーを開けないでください。
●寒冷地帯ではつゆが凍結し、霜になることがあります。またメッセージが消えるまで時間がかかることがあります。

	表示	ここを確かめてください	ページ
全般	01、02、06	●バッテリーと AC アダプターを取りはずして付け直し、表示が消えてから使う。	P.15 P.16
全般	03、04	●テープを取り出して入れ直し、表示が消えてから使う。	P.18

■01 ～ 06 について
動作させて同じ表示がでなければ問題ありません。
2、3 回繰り返しても表示が消えないときは、テープは取り出さず、お買い上げ店、またはビクターサービス窓口へご相談ください。

	表示	ここを確かめてください	ページ
全般	日時を設定して下さい	●日時を設定し直す。再び表示されたら、お買い上げ店、またはビクターサービス窓口へご相談ください。	P.21
全般	クリーニングカセットを試して下さい	●ミニ DV ヘッドクリーナー (別売) でクリーニングする。	P.76
全般	レンズキャップ	●レンズキャップを取りはずす。	P.15
テープ	テープへ記録できません	●テープのツマミを「REC」にあわせる。	–
テープ	コピーガードがかかっています	●コピーガードのかかっている映像はダビングできません。	–
テープ	テープ終り	●テープを交換するか、巻戻す。	–

	表示	ここを確かめてください	ページ
テープ	HDV [tape icon]	●HDV 規格で記録した映像です。本機では再生できません。 ●テープを交換するか、早送り／巻戻しで再生できる部分を探す。 ●不要な映像の場合は、上書きして撮影する。	–
テープ	インサート録画できません	●テープのツマミを「REC」にあわせる。 ●VTR メニューの「録画モード」を「SP」に設定して撮影しておく。 ●テープにムービーが記録されていないときは、ムービーを撮影しておく。	P.71
テープ	音声アフレコできません	●テープのツマミを「REC」にあわせる。 ●VTR メニューの「録画モード」を「SP」に、「音声モード」を「12BIT」設定して撮影しておく。	P.71
カード	?	●ほかの機器で再生する。（本機で再生できない形式です。）	–
カード	メモリーカードエラー	●カードを入れ直す、または静止画の再生メニューの「フォーマット」を実行する。	P.19 P.75
カード	静止画がありません	●カードに静止画を撮影する。	P.32
カード	メモリー容量がありません	●カードを交換するか、ファイルを削除する。	P.42
カード	メモリーカードへ記録できません	●カードを交換するか、ファイルを削除する。 ●SD メモリーカードのライトプロテクトをはずす。	P.42

	表示	ここを確かめてください	ページ
カード	ライトプロテクトがかかっています	●SD メモリーカードのライトプロテクトをはずす。 ●カードを交換する。	–
	プロテクトがかかっています	●静止画の再生メニューの「プロテクト」で解除する。	P.75

安全上のご注意

ご使用になる方やほかの人々への危害や損害を防ぐために、必ずお守りいただきたいことを説明しています。

危険 人が死亡、または重傷を負う可能性が切迫して生じるおそれがあるもの。

警告 人が死亡、または重傷を負う可能性があるもの。

注意 人が重傷を負う、または物的損害が生じる可能性があるもの。

絵表示について

注意・警告が必要な事項。(図中に具体的な注意内容)

禁止されている事項。(図中に具体的な禁止内容)

実行して頂きたい事項。(図中に具体的な実行内容)

万が一こんなときは

バッテリーをはずす／電源プラグを抜く

- 煙が出たり異臭がするとき
- 落下などにより壊れたとき
- 内部に水や異物が入ったとき

(そのまま使用すると火災や感電の原因)

販売店に修理を依頼してください

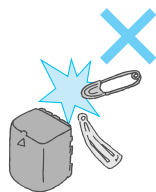
⚠危険

バッテリー、リモコン用電池

絶対に分解、加工、加熱、火中投入などをしない

- 液漏れ、発熱、破裂、発火による火災やけがの原因となります。

端子部に金属物(ネックレス、ヘアピンなど)を接触させない

- ショートによる発熱で火災や、やけどの原因となります。
- 持ち運びのときは、必ずバッテリーにキャップを付けてください。

高温(60 ℃以上)になる場所に置かない

- 発熱、破裂、発火による火災やけがの原因となります。

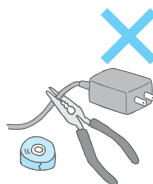
ACアダプター

本機以外に使わない

- 火災や故障、感電の原因となります。
- 本機用のものか確認してからご使用ください。

ACアダプター		**分解や改造をしない** ●火災や感電の原因となります。 ●お客様による点検、整備、修理は危険です。販売店にご依頼ください。

⚠警告

バッテリー、リモコン用電池		**液もれしていたら使わない** ●ショートによる発熱で、やけどの原因となります。 ●本体取り付け部をよくふいて、バッテリーを交換してください。 ●液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。 ●万が一、液が目などに入ったときは、きれいな水でよく洗ったあと、ただちに医師に相談してください。
		ぬれたバッテリーは使わない ●故障、感電、発熱、発火の原因となります。
ACアダプター		**電源コードや端子を傷つけない** ●火災や感電の原因となります。 ●次のようなことは電源コードが傷む原因になります。 コードを持って抜く、加工する、 無理に曲げる、ねじる、引っ張る、 重いものを載せる、加熱器具に近づける。
		電源コードは電源プラグを持って抜く
		電源コードが傷んだときは電源プラグを抜く ●販売店に修理を依頼してください。 ●芯線が露出したり、断線したまま使用すると、火災や感電の原因となります。
		指定の電源電圧で使用する
		電源プラグにホコリや金属物を付着させない ●火災や感電の原因となります。 ●付着しているときは電源プラグを抜き、取り除いてください。

AC アダプター		**雷が鳴り出したら、使用を中止する** ●感電の原因となります。
		電源プラグは根元までしっかり差し込む ●火災や感電の原因となります。 ●接触不良で発熱することがあります。
本体	 	**内部に物を入れない** ●火災や感電の原因となります。 ●特にテープの出し入れ口に注意願います。 ●降雨・降雪中、海岸・水辺などでは水が入らないよう、ご注意ください。 ●ふろ場では使用しないでください。
		内部の部品にさわらない ●感電や故障の原因となります。 ●テープの出入口から見える部品にさわらないでください。 ●ファインダーのレンズ部分にさわらないでください。
		機器を接続するときは、電源を切る ●感電や故障の原因となります。
		衝撃や振動を与えない
		分解や改造をしない ●火災や感電の原因となります。 ●内部の点検、整備、修理は販売店にご依頼ください。
		運転中に使用しない ●交通事故の原因となります。 ●自動車などを運転しながら撮影・再生はしないでください。
		レンズやファインダーを太陽などの強い光源に向けない ●火災や故障の原因となります。 ●集光により、内部部品が破損、過熱することがあります。
アクセサリー		**AC アダプターやバッテリーは当社指定のものを使う** ●火災や感電の原因となります。 ●本機用のものか、確かめてお使いください。

⚠注意

バッテリー、リモコン用電池

充電中に長時間ふれない
- 低温やけどの原因となります。
- 間違ってふれないような場所で充電してください。

電池を入れるときは、極性表示（＋と－）をあわせる
- 電池の破裂、液漏れにより火災、けが、周囲の汚損の原因となります。

ACアダプター

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
- 感電の原因となります。

充電中に長時間ふれない
- 低温やけどの原因となります。
- 間違ってふれないような場所で充電してください。

コードはつまずかないように配置する
- 製品の落下や転倒によるけがの原因となります。

本体

次のような場所には置かない、使わない
- 浜辺など砂ボコリの多いところ。
- 湿気やホコリの多いところ。
- 調理台や加湿機のそばなど、油煙や湯気の当たるところ。
- 熱器具の近くや直射日光の強いところなど高温になるところ。
- 車のダッシュボードの上など高温（60℃以上）になるところ。
- 火災や感電、故障の原因となります。

共通

移動するときは、電源プラグや接続コードをはずす
- コードの損傷による火災ややけどの原因となります。

長期間使わないときや、お手入れするときはバッテリーをはずし、電源プラグを抜く
- 感電の原因となります。
- 電源が「切」でも機器には電気が流れています。

5 年に一度は販売店に内部点検を依頼する
- 内部のホコリに電気が流れ、火災や感電の原因となります。
- 湿気の多くなる梅雨期のまえが効果的です。

飛行機内での使用は、航空会社の指示に従う
- 本機の電磁波などが、計器に影響を与えるおそれがあります。

保証とアフターサービス

保証書　別添付

保証書を販売店から受け取る際は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめください。その後、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日から１年間です。

補修用部品の最低保有期間

当社は、デジタルビデオカメラの補修用性能部品を、製造打ち切り後、最低８年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

お買い上げの販売店または最寄りのビクターサービスにお問い合わせください。最寄りのビクターサービスは、別紙の「ビクターサービス窓口案内」にてご確認ください。

愛情点検	●長年お使いのカメラの点検をぜひ！	熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか	●再生しても映像や音声がでない ●異常な臭いや音がする ●水や異物が入った ●その他の異常や故障がある

ご使用を中止	故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店に点検をご相談ください。

修理を依頼される場合 持込修理

「故障かなと思ったら…」(P.76) に従って調べてください。
異常があるときは、電源を切り、必ずバッテリーと AC アダプターを取りはずしてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。本機・DV カセットテープ SD メモリーカード・マルチメディアカードなどの万が一の不具合により、正常に録画・録音・再生ができない場合、内容の補償についてはご容赦ください。

■ご連絡していただきたい内容

品　名	デジタルビデオカメラ
型　名	GR-D790
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	
お名前	
電話番号	(　)　ー

■保証期間中は
修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店にて修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料修理させていただきます。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

ご相談窓口におけるお客様の個人情報につきましては、日本ビクター株式会社およびビクターグループ関係会社 (以下、当社) にて、下記の通り、お取り扱いいたします。

- お客様の個人情報は、お問い合せへの対応、修理およびその確認連絡に利用させていただきます。
- お客様の個人情報は、適切に管理し、当社が必要と判断する期間保管させていただきます。
- 次の場合を除き、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。
  ① 上記利用目的のために、協力会社に業務委託する場合。当該協力会社に対しては、適切な管理と利用目的外の使用をさせない措置をとります。
  ② 法令に基づいて、司法、行政またはこれに類する機関から情報開示の要請を受けた場合。
- お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

仕様

一般

電源	AC アダプター使用時　DC 11V バッテリー使用時　　DC 7.2V
消費電力	ファインダー使用時　　2.2W （ライト使用時　2.3W) 液晶画面使用時　　　2.7W （ライト使用時　2.8W)
外形寸法	61mm × 94mm × 114mm (幅×高さ×奥行き)
質量	本体　　約 410g 撮影時　約 480g （バッテリー BN-VF808、60 分テープ、レンズキャップを含む)
動作環境	許容動作温度　0 ℃～ 40 ℃ 許容相対湿度　35%～ 80% 許容保存温度　-20 ℃～ 50 ℃

カメラ部

映像素子	1/6 型 68 万画素 CCD 撮像エリア：34 万画素
レンズ	F2.0 ～ F4.7、f = 2.3mm ～ 78.2mm (35mm カメラ換算　44mm ～ 1496mm)
フィルター径	27.0mm (ネジピッチ 0.5mm)
最低照度	20 ルクス (ナイトアイ時：約 1 ルクス)
ライト	推奨撮影距離：1.5m 以下、LED タイプ

液晶部／ファインダー部

液晶画面	2.7 型、11.2 万画素、アモルファスカラー液晶
ファインダー	0.33 型、11.3 万画素、ポリシリコンカラー液晶

■撮影・再生時のズーム仕様

ムービー撮影時	光学ズーム 34 倍まで、デジタルズーム 500 倍まで
静止画撮影時	光学ズーム 34 倍まで
再生時	再生ズーム 15 倍まで

デジタルビデオカメラ部

録画／再生方式	DV 方式 (SD 仕様) 映像：デジタルコンポーネント記録 音声：PCM デジタル記録、32kHz 4 チャンネル (12BIT)、48kHz 2 チャンネル (16BIT)、44.1kHz(再生のみ)
信号規格	NTSC 日米標準信号方式
使用カセット	ミニ DV カセット
録画／再生時間	SP モード：80 分、LP モード：120 分 (80 分テープ使用時)
早送り／巻戻し	約 3 分 (60 分テープ使用時)

デジタルスチルカメラ部

記録方式	JPEG 準拠
拡張子	JPG
画像サイズ	640 × 480 ドット
画質	ファイン／スタンダード
記録メディア	マルチメディアカード (市販)、SD メモリーカード (付属、市販)

■静止画の撮影可能枚数の目安

	マルチメディアカード	SD メモリーカード	
画像サイズ	32MB	32MB(付属)	64MB
ファイン	215 枚	205 枚	425 枚
スタンダード	645 枚	625 枚	1285 枚

お知らせ ●撮影枚数は目安です。SD メモリーカードについては、松下製、東芝製、SanDisk 製、PQI 製：32MB/64MB(2006 年 3 月現在、当社動作確認済み) の使用を推奨いたします。

時計用電池

種類	一次電池 (内蔵)

端子部

DV 端子	4 ピン (i.LINK/IEEE1394 準拠)
AV 端子	映像端子 　アナログ出力 (1.0V(p-p)、75Ω) 音声端子 　ステレオ・アナログ出力 (300mV(rms)、 1kΩ)
USB 端子	ミニ USB-B タイプ(USB 2.0 ／ 1.1 準拠、転送速度:USB 1.1 相当)

AC アダプター AP-V14

電源	AC 100V— 240V、50Hz ／ 60Hz
入力容量	23VA(100V)、31VA(240V)
出力	DC11V、1A
許容動作温度	0 ℃～ 40 ℃ (充電時は 10 ℃～ 35 ℃)
外形寸法	50mm × 27mm × 71mm (幅×高さ×奥行き) (コードと AC プラグを含まず)
質量	約 100g

リモコン RM-V740

電池	DC3V(ボタン電池 CR2025)
電池寿命	約 1 年 (使用頻度により変わります。)
動作距離	約 5 m(正面軸上)
許容動作温度	0 ℃～ 40 ℃
外形寸法	42mm × 91mm × 13mm(幅×高さ×奥行き)
質量	約 40g(ボタン電池を含む)

バッテリー BN-VF808

電圧	DC 7.2V
容量	730mAh
外形寸法	52mm × 18mm × 31mm (幅×高さ×奥行き)
質量	約 48g

■充電時間の目安

バッテリー	時間
BN-VF808(付属)	1時間30分
BN-VF815(別売)	2時間40分
BN-VF823(別売)	3時間50分

※室温10℃〜35℃の範囲を想定しています。表の数字は目安です。

■実撮影時間の目安

バッテリー	ファインダー使用時		液晶画面使用時	
	ライトなし	ライト使用時	ライトなし	ライト使用時
BN-VF808(付属)	1時間10分	1時間5分	55分	53分
BN-VF815(別売)	2時間15分	2時間10分	1時間50分	1時間45分
BN-VF823(別売)	3時間25分	3時間15分	2時間45分	2時間40分
VU-V840KIT(別売)	6時間15分	5時間55分	5時間5分	4時間50分
VU-V856KIT(別売)	8時間40分	8時間20分	7時間5分	6時間50分

■連続撮影時間の目安(最大撮影時間)

バッテリー	ファインダー使用時		液晶画面使用時	
	ライトなし	ライト使用時	ライトなし	ライト使用時
BN-VF808(付属)	2時間15分	2時間10分	1時間50分	1時間45分
BN-VF815(別売)	4時間30分	4時間20分	3時間40分	3時間35分
BN-VF823(別売)	6時間45分	6時間30分	5時間30分	5時間20分
VU-V840KIT(別売)	12時間25分	11時間55分	10時間5分	9時間45分
VU-V856KIT(別売)	17時間25分	16時間40分	14時間10分	13時間40分

※VU-V840KITおよびVU-V856KITは、バッテリーを付属のバッテリーポーチに入れ、別売のDCコード(VC-VBN800)でバッテリーポーチとビデオカメラを接続して使います。バッテリーをビデオカメラに直接取り付けることはできません。
※撮影条件により、撮影可能時間は変化します。表の数字は目安です。

お知らせ
- 撮影時間は、ズームを使ったり、撮影と撮影停止を繰り返すことなどで短くなります。撮影予定時間の約3倍分のバッテリーを用意することをお勧めします。
- 実撮影時間は撮影、撮影停止、電源の入／切、ズーム動作などを繰り返した場合の撮影時間です。実際には、これよりも短くなることがあります。十分に充電しても撮影できる時間が短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーに交換してください(P.15)。

本機は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本機は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。この取扱説明書にしたがって正しく取り扱いをしてください。

バッテリーの処分について

● バッテリーを処分する際は、充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
安全のため、バッテリーキャップを取り付けるか、端子部にセロハンテープなどを貼ってください。

・ お問い合わせ：有限責任中間法人　JBRC
http://www.jbrc.net/hp/
※見られない場合は、裏表紙のお客様ご相談センターへ

美しい環境維持にあなたも一役。リサイクルに協力しましょう。
ご使用済みの電池は廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

他社製品の登録商標と商標について

● Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
● Macintosh、Mac OS は、米国 Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
● i.LINK は、IEEE1394-1995 仕様およびその拡張仕様です。i は i.LINK に準拠した商品につけられるロゴマークです。
● その他、記載している会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。なお、本文中では、TM マークと ® マークを明記していません。

さくいん

商品についてのご相談や修理のご依頼は

まず、お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください

ご相談窓口におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、P.91 をご覧ください。

修理に関するご相談	お買い物情報や全般的なご相談
ビクターサービスエンジニアリング株式会社 別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	**お客様ご相談センター** フリーダイヤル **0120-2828-17** 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 電話：(045) 450-8950 FAX：(045) 450-2275 〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12
技術的なご相談	
DVご相談窓口 **電話：(045)450-2770**	

ビクターホームページ　http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

M7D1S5 DSC　0107MKH-HT-VM